

2022（令和4）年度

# 事業報告書

社会福祉法人芙蓉会



# 社会福祉法人芙蓉会 基本理念

社会福祉法人芙蓉会は、1964年（昭和39年）に看護師であった四ヶ所ヨシによって創設された。終戦後、四ヶ所ヨシが日本で目の当たりにしたのは、戦災によって家族や住まいを失い、経済的に困窮する高齢者の姿であった。四ヶ所ヨシは、1954年に東京都大田区に芙蓉診療所を開設したのを皮切りに、その後の医療法人社団芙蓉会、社会福祉法人芙蓉会の設立に尽力する。「国を支え、育ててくれた高齢者に対し、感謝を忘れず敬意をもって尽くす」ことを信念とし、その後の人生を高齢者の医療と介護の発展に捧げた初代会長の想いは、「老人は国の宝」という言葉となって、芙蓉会の理念に受け継がれている。

- 第一 私たちは「老人は国の宝」の念をもって高齢者の尊厳を守り、その自立を精一杯支えたい。
- 第二 私たちは、高齢者が「ここに相談し、ここで生活できて本当に良かった」と言ってくださる、そんな法人・施設でありつづけたい。
- 第三 私たちは、常に向上心をもって研鑽に励むと共に、協調と和を大切にしてゆきたい。

## 社会福祉法人芙蓉会 2022 年度事業報告書

○ 芙蓉会 基本理念		1
I. 法人本部		
• 2022 年度 重点項目と個別目標に対する取り組み状況		6
• 内部統制機能の強化への取り組み～諸規程の整備		7
• 法人内部検査の実施		8
• 法人研修		8
• 法人本部主催会議・委員会		9
• 役員会等開催状況		9
• 施設設備・備品等の整備の実施		11
• 組織図		12
II. 芙蓉園		
• 介護保険施設・事業指定に係る事項		14
• 介護給付算定に係る体制等の状況		16
• 特別養護老人ホーム芙蓉園		18
• 短期入所芙蓉園		21
• デイサービスセンター芙蓉園		23
• 認知症対応型通所介護芙蓉園（ほのか）		25
• 地域密着型通所介護つるま屋		27
• ヘルパーステーション芙蓉園		30
• 居宅介護支援事業所芙蓉園		32
• 南第 1 高齢者支援センター（小川あんしん相談室）		34
• 総務課		37
• 栄養課		38
• 地域貢献事業		39
• 実習生		40
• ボランティア		41
• リスクマネジメント委員会		42
• 高齢者虐待防止委員会		44
• 防災対策検討委員会		45
• 感染症対策検討委員会		46
• 衛生管理委員会		47
• 褥瘡防止委員会		48
• ケアプラン委員会		50
• イベント委員会		51
• 安全衛生委員会		53
• 研修		55
• 苦情対応		57
• 会議・委員会一覧		58
• 組織図		62

### Ⅲ. 上総園

・ 介護保険施設・事業指定に係る事項	62
介護給付算定に係る体制等の状況	66
・ 特別養護老人ホーム上総園	68
・ 短期入所事業所上総園	71
・ 上総デイサービスセンター	73
・ 居宅介護支援事業所上総園	75
・ 上総園ふれあいデイサービスセンター	77
・ 君津市東部地域包括支援センター	79
・ 総務課	80
・ 栄養課	81
・ 地域貢献事業	82
・ 実習生	83
・ ボランティア	84
・ リスクマネジメント委員会	85
・ 身体拘束廃止委員会	87
・ 感染症防止委員会	88
・ 褥瘡防止委員会	89
・ 防災管理委員会	90
・ 安全衛生委員会	91
・ 虐待防止委員会	93
・ 研修	94
・ 苦情対応	96
・ 会議・委員会一覧	97
・ 組織図	98

### Ⅳ. 文京地域

・ 介護保険施設・事業指定に係る事項	100
介護給付算定に係る体制等の状況	101
・ 文京湯島高齢者在宅サービスセンター	102
・ 文京昭和高齢者在宅サービスセンター	104
・ 昭和介護保険サービスセンター	106
・ 防災対策、感染症対策	107
・ 地域貢献事業、実習生、ボランティア	108
・ 研修	110
・ 苦情対応	112
・ 会議・委員会一覧	113
・ 組織図	114

\* 報告内容にある図及び表中の構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%とは限りません。



# I. 法人本部

## 【法人本部】

### 1. 総括

新型コロナウイルス感染症も3年を経過した。世の中の流れがコロナの制限解除へ向かいつつある中、高齢者を対象とした事業を主として展開する芙蓉会としては、感染対策の徹底と制限解除とのバランスを取りながらの一年となった。各拠点における感染状況の定期的な把握・共有に務めながら、適宜対策を行い事業継続計画の策定や関連規程の改正等を行った。

そして、厳しい経営状況の中、利用率の向上に向けて、各事業所担当者を交えた対策協議や、業務の効率化に向けたICT導入の検討等も行った。また、諸法令の改正に基づく規程改正や研修にも取り組んだ。人材の確保・育成・定着に係る課題や、第三者評価等のフィードバックに対する仕組み作りについては、当初計画の通りに進まず次年度以降の課題とした。

2022年度の具体的な取り組みについては、以下に記載の通り、関係諸法令や規程に基づき適正な運営に努めた。

### 2. 2022年度 重点項目及び個別目標に対する取り組み状況

(○印：達成 ●印：未達成)

No	重点項目	計画の実施状況
1	福祉、介護サービスの継続的な提供等に向けた事業継続計画（BCP）の改善	
	① 新型コロナウイルス感染症に対応した事業継続計画（BCP）の見直しと改善 ② 自然災害等に対する事業継続計画（BCP）の作成及び見直し	○ 事業継続計画（BCP）策定の経過措置期間（2023年度末）を踏まえ、法人内会議において進捗に関する確認、及び定期的な情報共有を実施 ○ 各拠点における運営規程の改正等を実施
2	法人を取り巻く諸課題の整理及び分析と今後の方向性に関する検討	
	① コロナ禍における諸課題の整理、及び分析と行政指導等に即した対応の実行 ② 関係諸制度の動向、及び各拠点における周辺環境変化の整理、分析と方向性の検討	○ 毎月の打合せ、会議にて各拠点のコロナ感染状況等について共有。行政情報と併せ、対応に関する協議を実施 ○ 各拠点のコロナに係る特休の取扱い等について協議を実施 ○ 補助金等に関する情報を共有し、適宜申請等の対応を実施
3	経営基盤の安定に向けた各種対策検討及び対応と生産性向上に対する検討	
	① 利用率向上に向けた検討と拠点間の共有化 ② 予算・実績管理等の強化 ③ 生産性向上のための業務改善、及びICTの導入に向けた諸課題の整理と検討	○ 経営分析シートの見直しを行い、毎月の会議において予算対比 $\Delta$ で、収入、人員、時間外等の差異について確認 ○ 7月には、各拠点担当者が参集して収支改善に向けた対策会議を実施 ○ ICT関連情報について毎月共有し、導入に関する検討を実施



No	重点項目	計画の実施状況
4	適正な運営に向けた法令遵守の徹底と内部統制の整備、事業運営の透明性の向上	
	① 諸法令の改定等に即した各種規程等の改廃 ② 内部統制の整備に向けた検討 ③ 法人情報等の拠点内における閲覧、及びホームページや広報誌等による情報公開の促進	○ 6月理事会にて諸法令に即した規程改正を実施 ● 内部統制の整備については、次年度も引き続き検討課題とする ○ 情報公開が必要な情報に関し、施設内閲覧やホームページ等について公開
5	適正な運営に向けたサービス管理（リスク管理）の徹底	
	① 事故(介護事故、労災等)防止及び虐待、権利擁護等に関する対応策の強化と職員周知 ② 諸法令に即した研修の実施	○ 高齢者施設における権利擁護について研修を実施（対面及び録画配信） ○ 法改正に即した事項について、法令遵守研修として実施
6	適正な運営に向けたサービス管理（サービス評価）の検討	
	① 内部監査の内容に関する検討、及び第三者評価等の各サービス評価に関する検討 ② 評価で得た内容をフィードバックし、サービス改善に繋げる仕組みの検討	○ 内部監査の帳票について見直すと共に実施目的に拠点間の理解及びコミュニケーションの促進を追加し対面で実施 ● 第三者評価を含め、フィードバックの仕組み作りは、引き続き検討課題とする
7	人材の確保・育成・定着のための環境づくりの推進	
	① 多様な人材等の受入れに向けた各種規程等の見直し及び検討 ② ホームページ等を活用した人材確保の充実 ③ 法人の求める人材育成を目的として、職位に応じた職責の明確化を図る ④ 各拠点における人事考課制度の推進に関する検討 ⑤ 人材定着のための職場環境の改善	● 人材の確保・育成・定着に係る取組みについては、引き続き検討課題とする ○ 人材育成、人事考課の課題について、管理者を中心とした半年間のマネジメント研修を実施（10月～3月） ○ 芙蓉園拠点において、評価制度の見直しを実施。次年度から導入予定 ○ 文京拠点において、「職員人事考課制度」を導入。今後は、今年度の課題について継続的な見直しを行う

### 3. 内部統制機能の強化への取り組み～諸規程類の整備

(1) 法改正や実態に合わせる形で、以下の規程について一部改正を行った。

- 1) 芙蓉会 経理規程
- 2) 芙蓉会 ハラスメント防止規程
- 3) 芙蓉会 育児休業及び育児短時間勤務に関する規程
- 4) 芙蓉会 個人情報保護規程
- 5) 芙蓉会 特定個人情報保護規程

- 6) 芙蓉会 慶弔見舞金規程
- 7) 芙蓉会 監事監査規程

#### 4. 法人内部検査の実施

##### (1) 対象拠点及び実施日時

- 1) 芙蓉園：2022年 9月22日（木） 13：30～16：00
- 2) 上総園：2022年 9月28日（水） 13：30～16：00
- 3) 文京：2022年10月 7日（金） 13：30～16：30

##### (2) 実施内容

- 1) 内部検査員：拠点長、副拠点長、各事業担当課長等
- 2) 内容
  - ① 内部検査チェックリストに基づき、チェック項目に対する内容確認の実施
  - ② 上記項目に基づく書類確認
  - ③ チェック項目に沿ったヒアリング
  - ④ 内部検査チェックリストへのコメント記入ならびに内部検査結果報告書の各拠点へのフィードバック

#### 5. 法人研修

No.	カテゴリー	テーマ	実施日	受講者数
1	コンプライアンス (法令遵守)	改正個人情報保護法/改正育児・介護休業法の理解	2022/10/14～ オンライン・録画視聴	32
2	コンプライアンス (法令遵守)	ハラスメント防止とカスタマーハラスメント	2022/10/14～ オンライン・録画視聴	43
3	コンプライアンス (権利擁護)	高齢者施設における権利擁護	2022/12/22～ 対面・オンライン・ 録画視聴	42
4	管理職研修 (第1回)	管理職の役割・基本スタンス	2022/10/25～ 対面・オンライン・ 録画視聴	21
5	管理職研修 (第2回)	服務規律の指導	2022/12/13～ オンライン・録画視聴	22
6	管理職研修 (第3回)	ハラスメントの防止	2023/1/24～ オンライン・録画視聴	23
7	管理職研修 (第4回)	入職後フォローと離職防止について	2023/2/28～ オンライン・録画視聴	16
8	管理職研修 (第5回)	面接・フィードバックについて	2023/3/28～ オンライン・録画視聴	16

## 6. 法人本部主催会議・委員会

会議・委員会	開催日 (実施回数)	主な審議事項	構成員
法人経営会議	月 1 回 第 4 火曜 (11 回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芙蓉会の経営方針に関する協議</li> <li>・芙蓉会の中長期的経営・運営に関する協議</li> <li>・制度及び外部環境を踏まえた方向性に関する協議</li> <li>・その他経営上、必要な事項に関する協議</li> </ul>	理事長 参与 事務局長補佐 拠点長 副拠点長 総務課長 上総支援課長 文京課長
法人事務局会議	月 1 回 第 2 火曜 (9 回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各拠点の事業運営に係る課題の整理、協議</li> <li>・各拠点の事業運営の進捗管理</li> <li>・事業継続計画に係る課題の整理、協議</li> <li>・その他運営上、必要な事項に関する協議</li> </ul>	理事長 参与 事務局長補佐 拠点長 副拠点長 総務課長 上総支援課長 文京課長

## 7. 役員会等開催状況

### (1) 理事会の審議内容

開催年月日	審議内容
【第 1 回】 2022 年 6 月 10 日	1. 決議事項 第 1 号議案 2021 年度事業報告（案）について 第 2 号議案 2021 年度決算報告（案）について 第 3 号議案 諸規程の一部改正について (1) 芙蓉会 経理規程 (2) 芙蓉会 ハラスメント防止規程 (3) 芙蓉会 育児休業及び育児短時間勤務に関する規程 (4) 芙蓉会 個人情報保護規程 (5) 芙蓉会 特定個人情報保護規程 (6) 芙蓉会 慶弔見舞金規程 (7) 芙蓉会 監事監査規程 (8) 芙蓉園・上総園・文京拠点 給与規程 (9) 芙蓉園・上総園・文京拠点 給与規程 諸手当支給額表 (10) 芙蓉園 就業規則 (11) 芙蓉園 非常勤職員の就業規則 (12) 特別養護老人ホーム芙蓉園 運営規程 第 4 号議案 評議員会の招集事項について

開催年月日	審議内容
【第1回】 2022年6月10日	2. 報告事項 (1) 上総園屋上防水工事入札の結果について (2) 理事長の職務執行状況の報告
【第2回】 2022年11月19日	1. 決議事項 第1号議案 2022年度 上半期事業報告・中間事業監査報告について 第2号議案 2022年度 上半期会計報告・中間会計監査報告について 第3号議案 2022年度 第1次補正予算(案)について 第4号議案 施設整備積立金の取崩しについて 第5号議案 芙蓉園 つるま屋の事業閉鎖(案)について 第6号議案 評議員の退任に伴う評議員候補者の推薦および 評議員選任・解任委員会に係る事務局員変更の報告 第7号議案 評議員会の招集事項について 2. 報告事項 (1) 理事長の職務執行状況の報告 (2) 2022年度末理事会の日程について
【第3回】 2023年3月4日	1. 決議事項 第1号議案 2022年度 第2次補正予算(案)について 第2号議案 2023年度 事業計画(案)について 第3号議案 2023年度 収支予算(案)について 第4号議案 定款及び定款細則の一部変更(案)について 第5号議案 諸規程の改正(案)について (1) 芙蓉会 経理規程 (2) 芙蓉園・上総園・文京拠点 就業規則 (3) 芙蓉園・上総園・文京拠点 運営規程 (芙蓉園7事業所、上総園6事業所、文京拠点3事業所) 第6号議案 会社役員賠償責任保険の更新について 第7号議案 人事案件について 第8号議案 評議員会の招集事項について 2. 報告事項 (1) 理事長の職務執行状況の報告

(2) 評議員会の審議内容

開催年月日	審議内容
【第1回】 2022年6月25日	1. 決議事項 第1号議案 2021年度 決算報告(案)について 2. 報告事項 (1) 2021年度 事業報告について (2) 上総園屋上防水工事入札の結果について (3) 理事長の職務執行状況の報告

開催年月日	審議内容
【第2回】 2022年12月3日	1. 決議事項 第1号議案 2022年度 上半期会計報告・中間会計監査報告について 第2号議案 2022年度 第1次補正予算(案)について 2. 報告事項 (1) 2022年度 上半期事業報告・中間事業監査報告について (2) 芙蓉園 つるま屋の事業閉鎖について (3) 理事長の上半期職務執行状況の報告
【第4回】 2023年3月25日	1. 決議事項 第1号議案 2022年度 第2次補正予算(案)について 第2号議案 2023年度 事業計画(案)について 第3号議案 2023年度 収支予算(案)について 第4号議案 定款の一部変更(案)について 2. 報告事項 (1) 会社役員賠償責任保険の更新について (2) 人事案件について (3) 理事長の職務執行状況の報告

(3) 評議員選任・解任委員会の審議内容

開催年月日	内容
【第1回】 2022年11月28日	第1号議案 現評議員の退任に伴う新評議員の選任について

(4) 監事による監査

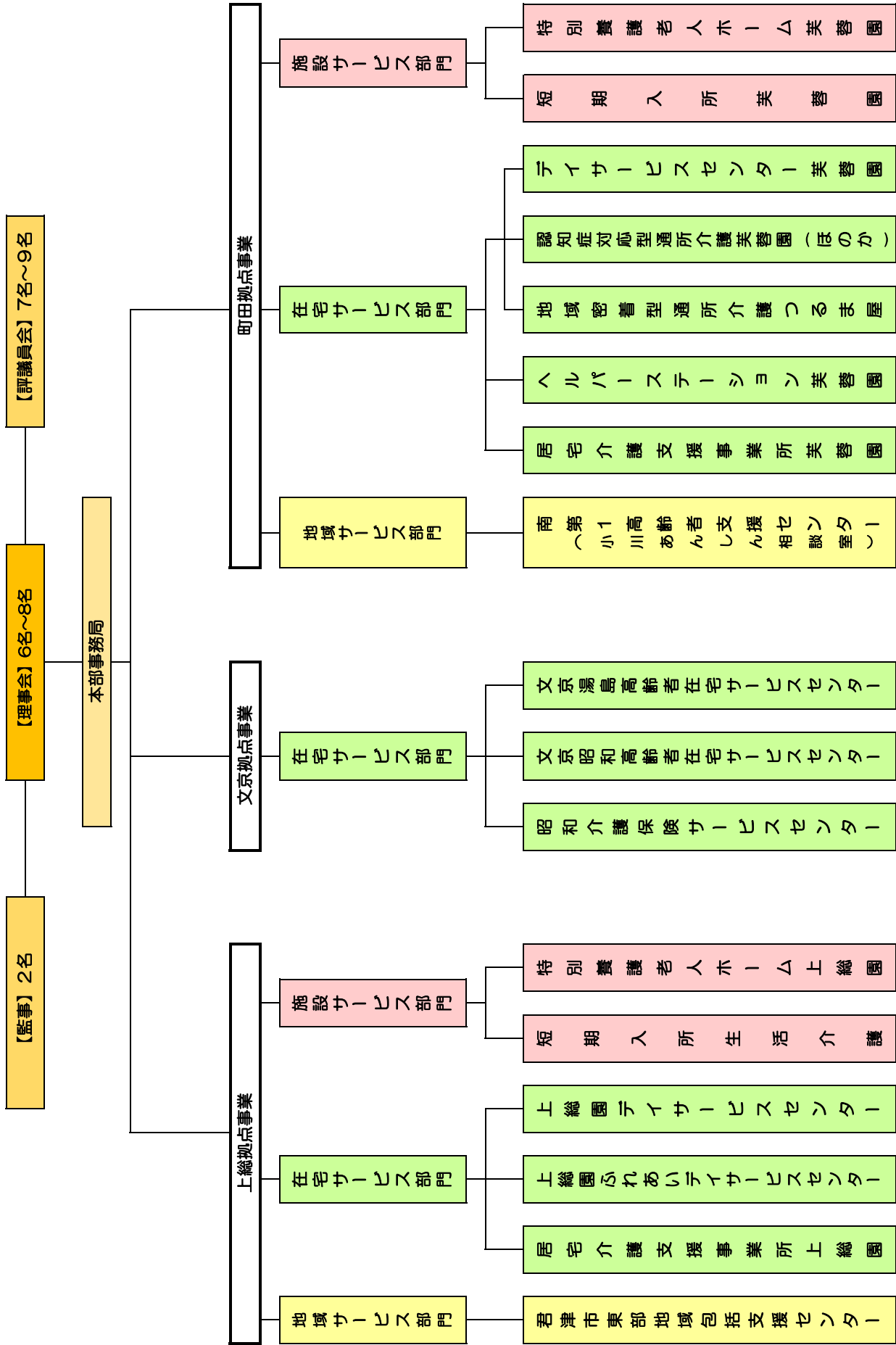
開催年月日	内容
2022年5月26日	1. 2021年度 事業報告(案)について 2. 2021年度 決算報告(案)について
2022年10月19日	1. 2022年度 上半期事業報告について 2. 2022年度 上半期会計報告について

9. 施設設備・備品等の整備の実施

理事会審議案件のみ記載。それ以外の実施案件については、各拠点の事業報告に記載する。

項目名	金額
上総園屋上防水工事	33,935,000円
芙蓉園自動火災報知設備更新	9,900,000円
上総園厨房機器更新	4,950,000円

【社会福祉法人芙蓉会 組織図】



## Ⅱ. 芙蓉園



介護保険施設・事業指定に係る事項

事業所施設の名称	利用者定員	基準配置人員	営業日 営業時間	通常の事業 実施地域
特別養護老人ホーム芙蓉園 (従来型多床室)	定員 190人	管理者1 介護支援専門員2 生活相談員2 機能訓練指導員2 管理栄養士2	—	—
短期入所芙蓉園 (空床利用型)	定員 9人	看護・介護職員64	—	—
短期入所芙蓉園 (単独型)	定員 30人	管理者1 生活相談員1 看護・介護職員10	—	—
デイサービスセンター芙蓉園	定員 29人	管理者1 生活相談員1 介護職員3.8 看護職員1 機能訓練指導員1	月曜日から土曜日及び祝日、 ただし日曜日及び12月30 日から1月3日までを除く、 8時30分から17時30分 まで。サービス提供時間は9 時30分から16時45分ま で。	町田市内 相模原市
認知症対応型通所介護芙蓉園 (ほのか) (併設型)	定員 10人	管理者1 生活相談員1 介護職員1 機能訓練指導員1	月曜日から土曜日及び祝日、 ただし日曜日及び12月30 日から1月3日までを除く、 8時30分から17時30分 まで。サービス提供時間は9 時30分から16時45分ま で。	町田市内



事業所施設の名称	利用者定員	基準配置人員	営業日 営業時間	通常の事業 実施地域
地域密着型通所介護つるま屋	定員 10人	管理者1 生活相談員1 介護職員1 機能訓練指導員1	月曜日から金曜日及び祝日、 ただし土曜日、日曜日及び 12月30日から1月3日 までを除く、8時30分から 17時30分まで。サービス 提供時間は9時30分から 16時45分まで。	町田市内
ヘルパーステーション芙蓉園	—	<訪問介護> 管理者1 サービス提供責任者1 訪問介護員2.5以上 <総合事業> 管理者1 訪問事業責任者1 まちいきヘルパー1	月曜日から土曜日及び祝日、 ただし日曜日及び12月30 日から1月3日までを除く、 平日8時30分から18時 30分まで、土曜日及び祝日は 8時30分から17時30分 まで。サービス提供時間は8 時から18時まで。	町田市内
居宅介護支援事業所芙蓉園	—	管理者1 主任介護支援専門員1 介護支援専門員3 事務員1	月曜日から土曜日及び祝日、 ただし日曜日及び12月30 日から1月3日までを除く、 8時30分から17:30ま で。	町田市 相模原市 大和市 横浜市
南第1高齢者支援センター (小川あんしん相談室)	—	保健師3 (または準する者) 社会福祉士2 主任介護支援専門員1 介護支援専門員3 事務員1	月曜日から土曜日、ただし日 曜日、祝日及び12月29日 から1月3日までを除く、 8時30分から17時まで。	南町田 鶴間 小川 つくし野 南つくし野

介護給付算定に係る体制等の状況（介護給付請求の基礎となる施設・人員等の区分）

事業区分：指定事業所 地域区分：2 級地（特甲地）

指定事業所番号 名称	1373200227 特別養護老人ホーム芙蓉園 1373201365 特別養護老人ホーム芙蓉園（空床利用型） 1373201357 短期入所芙蓉園（単独型）	
提供サービス	施設等の区分	その他該当する体制等
介護老人福祉施設	従来型 介護福祉施設	夜間勤務条件基準（基準型） 身体拘束廃止取組み（有） 非常勤専従医師配置（嘱託医師週2回） 療養食加算 精神科医療養指導（嘱託医師月2回） 日常生活継続支援加算（I） 個別機能訓練加算 看護体制加算（I） 夜勤職員配置加算（I2） 介護職員処遇改善加算（I） 介護職員特定処遇改善加算（I） 介護職員 <sup>ハ</sup> -アップ等支援加算（I）
介護老人福祉施設	空床利用型 短期入所生活介護	夜間勤務条件基準（基準型） 送迎加算 看護体制加算（I） サービス提供体制加算（I2） 夜勤職員配置加算 介護職員処遇改善加算（I） 介護職員特定処遇改善加算（I） 介護職員 <sup>ハ</sup> -アップ等支援加算（I）
短期入所生活介護 （予防）	単独型	夜間勤務条件基準（基準型） 送迎加算 サービス提供体制加算（I1） 介護職員処遇改善加算（I） 介護職員特定処遇改善加算（I） 介護職員 <sup>ハ</sup> -アップ等支援加算（I）

事業区分：指定事業所 地域区分：2 級地（特甲地）

指定事業所番号 名称	1373201340 デイサービスセンター芙蓉園 1393200181 認知症対応型通所介護芙蓉園（ほのか） 1373205283 地域密着型通所介護つま屋 1373201332 ヘルパーステーション芙蓉園 1373200110 居宅介護支援事業所芙蓉園	
提供サービス	施設等の区分	その他該当する体制等
通所介護 （予防・総合事業）	通常規模	入浴介助体制加算（Ⅰ） 個別機能訓練加算（Ⅰイ） サービス提供体制加算（Ⅱ） 運動器機能向上体制加算 介護職員処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員 <sup>ハ</sup> - <sup>アップ</sup> 等支援加算（Ⅰ）
認知症対応型 通所介護 （介護予防）	地域密着型	入浴介助体制加算（Ⅰ） サービス提供体制加算（Ⅲ） 介護職員処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員特定処遇改善加算（Ⅱ） 介護職員 <sup>ハ</sup> - <sup>アップ</sup> 等支援加算（Ⅰ）
通所介護 （予防・総合事業）	地域密着型	サービス提供体制加算（Ⅱ） 介護職員処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員特定処遇改善加算（Ⅱ） 介護職員 <sup>ハ</sup> - <sup>アップ</sup> 等支援加算（Ⅰ）
訪問介護 （予防・総合事業）	—	介護職員処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員特定処遇改善加算（Ⅱ） 介護職員 <sup>ハ</sup> - <sup>アップ</sup> 等支援加算（Ⅰ）
居宅介護支援	—	特定事業所加算（Ⅱ）

事業区分：町田市委託事業

指定事業所番号 名称	1303200149 南第1 高齢者支援センター（小川あんしん相談室）	
提供サービス	施設等の区分	その他該当する体制等
地域包括 支援センター	—	—

## 【特別養護老人ホーム】(定員 190 人)

### 1. 2022 年度 取り組み実績

(1) 「笑顔で元気な挨拶」、「相手に不快感を与えない身だしなみ」、「言葉遣い」について取り組み、福祉施設職員としての自覚を持つ。

- ・身だしなみや言葉遣いについては、個々に「接遇チェックシート」や「虐待の芽チェックシート」を実施することで、自身を見直す機会を作った。また、自己評価に加え、人事考課の面談時に、面接官より各職員に対して、言葉遣いや身だしなみの評価を行うとともに、その重要性を伝えた。
- ・利用者への声掛けについては、「です・ます調」でも親しみを込めた会話ができる事を伝えると共に、随時、連絡メモなどで声掛けに対する注意喚起を行った。

(2) 整理整頓、清潔、清掃を実行し、快適性や安全性のもと利用者が心地よいと感じて日常生活を過ごす事ができるよう取り組む。

- ・環境整備については 1 ヶ月毎に取り組み内容を決定し、実施した。月初めに、取り組み内容の周知文を作成し発信することで、意識の向上に繋がった。しかし、感染症によるクラスターが各フロアで発生した事や、人員不足により、十分な取り組みはできなかった。来年度も継続課題として取り組む。

(3) 褥瘡予防対策を通じて職員の介護技術や知識の向上を図り、職員が自ら考えて行動できるようになることを目指す。

- ・排泄班により、研修会（外部講師）を 2 回実施した。スキンケアや使用している排泄用具の特徴や性能を理解した事で、職員の知識や技術の向上へ繋がった。
- ・栄養班により、褥瘡の段階にあった必要栄養素について研修会（外部講師）を実施した。その他、安全な食事支援を学び、スプーンの変更を行った。
- ・ポジショニングについては体験型や実践的な研修を実施し、理解を深める事ができた。しかし、活かしきれていない部分があり、来年度も継続して取り組んでいく。
- ・記録の向上については、アセスメント表を活用し、多職種カンファレンスで情報を共有する事で、多角的な視点で個々の利用者を深く知る事ができた。
- ・教育トレーナーによる集合型研修は、感染症予防のため採用時研修のみとなった。出張型研修、資料配布型研修は継続して行い、随時、知識に繋がるワンポイントアドバイスを発信した。集合型研修の代替えとして、様々な研修スタイルを取り入れる事ができた。

(4) 目標利用率 97.5%を達成する

- ・今年度、利用率実績（空床ショート含む）は 93.0%。目標利用率に対しては▲4.5%で目標未達成となった。
- ・昨年度は、退所者が延べ 58 人に対して入所が 46 人であったが、今年度は延べ 68 人の退所に対して入所が 75 人となり、入退所共に増加した。

- 新型コロナウイルス感染症によるクラスターが8月に全フロア（2階、3階、4階）で発生した。また、11月には4階フロアで大規模クラスターが発生し、終息に向けた対策を行った。結果、入退所等の遅延により、空きベッド数は、昨年度延べ3,012床（空床ショート含む）に対して、今年度は、4,834床（空床ショート含む）となり、昨年度と比較して1,822床の増加となった。
- 年に1回職員より家族へ、利用者の日々の様子を写真で伝える機会を作った。
- 家族等の直接面会については、約2年4ヶ月ぶりに、7月より再開した。その後、園内でクラスターが4回発生したため、中止と再開を繰り返しながらの実施となったが、多くの方に面会いただく事ができた。

実施期間	家族数
2022年 7月11日～7月21日	14組 36人
2022年11月 1日～11月 2日	5組 7人
2022年11月28日～12月23日	68組 129人
2023年 2月 1日～3月31日	70組 122人

## 2. 2022年度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	97.5%	97.5%	97.5%
実績利用率	93.0%	95.6%	96.9%

### (2) 月別利用率実績（定員190人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
目標利用率 (%)	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5	97.5
実績利用率 (%)	90.0	91.6	91.3	91.0	93.0	89.0	92.1	91.0	91.4	90.7	92.4	94.3	91.5
平均利用者数 (人)	170.9	174.0	173.4	172.9	176.8	169.1	174.9	172.9	173.6	172.3	175.5	179.2	173.8
実績利用率 (%) 〔空床利用含む〕	90.6	93.4	94.1	93.7	94.0	89.7	94.9	93.5	92.8	91.6	93.0	94.8	93.0
平均利用者数 (人) 〔空床利用含む〕	172.1	177.5	178.8	178.0	178.6	170.4	180.3	177.6	176.3	174.0	176.7	180.1	176.7

### (3) 入退所状況

#### 1) 入所前生活場所 (人)

	在宅	介護保険施設	医療機関	介護保険施設 以外の施設等	合計
男性	8	2	5	1	16
女性	22	13	15	9	59
合計	30	15	20	10	75

#### 2) 退所理由 (人)

	ご逝去		長期入院	他施設入所		在宅復帰	合計
	芙蓉園	医療機関内		介護保険施設	その他の施設		
男性	6	0	6	0	0	0	12
女性	31	4	19	0	2	0	56
合計	37	4	25	0	2	0	68

### (4) 園内での看取りと加算取得について

園内での看取り	看取り介護加算取得
37人	29人

### (5) 日常生活継続支援加算

#### 1) 新規入所者の割合 (要介護 4 若しくは 5 の割合が 70%以上) (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前12か月平均 $\geq$ 70%	87.5	88.9	88.4	86.4	85.7	90.0	90.2	83.9	84.1	83.3	83.3	81.6
前6か月平均 $\geq$ 70%	94.1	90.5	95.2	91.7	88.5	86.2	88.2	78.0	80.0	80.0	80.0	76.2

#### 2) 介護福祉士数の割合 (常勤換算 利用者 6 人に対して 1 人以上) (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護福祉士数 $\geq$ 30.4人	34.4	34.4	34.4	34.3	32.1	35.0	35.1	36.5	37.0	37.9	34.1	38.0

## 【短期入所芙蓉園】(定員 30 人)

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 接遇力の向上を図る

- ・ミーティングの時間や連絡メモ上での文書発信を通して、適切な接遇の在り方を伝えた。
- ・年度末に、不適切ケアについて職員アンケートを実施。自身の行動について振り返りを行った。
- ・マンツーマン対応を必要とする利用者が増加傾向にあったが、できる限り利用者個々に寄り添ったケアを行った。

#### (2) ショートステイ利用後、入所時の心身の状態で在宅生活にもどれることを目指す

- ・利用者の状態変化や新規利用者の増加により、職員によって援助方法が変わる場面があった。職員連絡メモへ、利用者の情報や対応方法を、以前より詳細に記すよう改善した事で、援助方法の統一を図る事ができた。
- ・利用者の在宅生活の状況に関する情報を相談員と共有し、ケアプランに反映させることで、職員がニーズに合ったケアを統一して行えるよう努めた。
- ・滞在日数に応じて、週 1 回のフィットネスを実施した。また、短距離でも歩行が可能な方については、職員が付き添いながら安全に歩ける機会を設けることで、下肢筋力の維持に努めた。

#### (3) アクティビティケアの充実

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、一定の距離を保ち、カラオケや毎日の体操・外気浴や、利用者のできる事に着目した個別での貼り絵や塗り絵などを行った。

#### (4) 目標利用率 95.5%を達成する

- ・今年度、利用率実績は 78.2%。目標利用率に対しては▲17.3%で目標未達成となった。
- ・8月、12月、1月に、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した。特に、12月、1月は入退所停止期間が長く、利用率の低下に大きく影響した。
- ・利用者や家族に対して、ショートステイの活動報告を定期的実施することができた。
- ・居宅のケアマネジャー、利用者、家族宛に「空き情報」を定期的に発信した。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	95.5%	95.5%	95.5%
実績利用率	78.2%	82.7%	81.8%

### (2) 月別利用率実績 (定員 30 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
目標利用率 (%)	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5
実績利用率 (%)	90.7	85.7	81.7	81.0	79.7	72.3	80.7	83.7	63.7	62.0	81.0	76.8	78.2
平均利用者数 (名)	27.2	25.7	24.5	24.3	23.9	21.7	24.2	25.1	19.1	18.6	24.3	23.0	23.5



## 【デイサービスセンター芙蓉園】(定員 29 人)

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) サービスの提供について

- ・感染症対策を継続しながら季節のイベントを企画し、5月フラワーアレンジ(8名)、6月紫陽花クラフト(19名)、7月うちわ作り(50枚)、8月かき氷・綿あめ大会、11月干支の根付け(30名)、12月クリスマスバイキング、12月～1月正月絵馬作り(10名)、3月ラーメン大会、不定期に絵手紙や花の寄せ植えを実施した。
- ・外出活動は、5月薬師寺公園への菖蒲花見(5月24日:11名)、3月恩田川への桜花見ドライブ(3月24日～4月3日:39名)を行った。
- ・自立支援は、来園後に鞆をロッカーに入れて上着をハンガーに掛ける、食事前に洗面所へ行き石鹸で手を洗う、食事前後のテーブル拭きなどを継続支援し、1日の中に分割して生活リハビリを取り入れた。利用者にも定着しており、声を掛け合って取り組まれる様子も見られた。廊下で自主的に歩行練習される利用者も少しずつ増えた。
- ・感染症予防のため、1テーブルに上限2名までの着席を継続した。

#### (2) 家族や地域との関わりについて

- ・デイサービス通信の配布(月1回)、フェイスブックの発信(月1～2回)を継続し、デイサービスでの活動を紹介した。きらぼし銀行南町田支店(偶数月)、城南信用金庫すずかけ台支店(奇数月)での利用者作品の展示を継続。手作り団扇は、町内会の夏祭りが中止となったため、前年度同様にきらぼし銀行と城南信用金庫へ寄付した。
- ・利用者及び家族向けアンケートは2月に実施した。家族交流会は3月に認知症対応型通所介護ほのかと合同で開催。前半は南第1高齢者支援センター職員による、センターの役割や町田市の事業についての紹介を行い、後半は家族同士での交流会を開催した。

#### (3) 専門性の向上への取り組みについて

- ・LIFE導入に向け、相談員、介護員、看護師、機能訓練指導員で検討会議を開催し、科学的介護推進加算、ADL維持等加算を取得するにあたり、準備を進めた。
- ・デイサービス、ほのか、つるま屋、ヘルパーステーションでの在宅課合同研修を毎月実施した。

#### (4) 目標利用率82.5%を達成する

- ・今年度、利用率実績は76.3%。目標利用率に対しては▲6.2%で目標未達成となった。感染症の罹患や濃厚接触者となり利用を自粛された方が発生した事や、年間を通して入院者が36名(386日間:前年度比236%)発生した事が利用率減少の一因となった。
- ・新規利用者は44名、終結者は41名であった。終結者の内訳は、施設入所17名、入院1名、逝去4名、転居4名、サービス変更7名、利用困難7名、コロナ終結迄中止1名。登録者数は昨年度末が81名、今年度末が80名と1名減少した。新規利用の問い合わせ件数は昨年度63件と比較して、今年度82件へ増加した。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	82.5%	82.5%	86.5%
実績利用率	76.3%	76.8%	71.8%

### (2) 月別利用率実績（定員29名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数(日)	26	26	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	—
目標利用率(%)	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5
実績利用率(%)	74.8	72.7	70.6	66.5	76.6	75.1	80.5	78.3	78.2	82.3	82.0	77.8	76.3
平均利用者数(名)	21.7	21.1	20.5	19.3	22.2	21.8	23.3	22.7	22.7	23.9	23.8	22.6	22.1

## 【認知症対応型通所介護芙蓉園（ほのか）】（定員 10 名）

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### （1）サービスの提供について

- 基本的な感染症対策を継続しながら、毎日のおやつ作りなど、各種活動を提供した。
- 家族より「体を動かす活動をより多く取り入れてほしい」との要望があり、体操の時間を1日平均3回取り入れた。
- 外出活動は、野津田公園バラ広場、薬師池公園、恩田川へのお花見ドライブなど、年間通して4回実施した。
- 外食活動は、とんでん南成瀬店にて1回実施した。外出する機会が少なかった要因として職員の人員不足が挙げられるが、その他利用者自身の「安心できる室内で普段通りに過ごしたい」との希望もあった。そのため、中庭に花を植え、散歩を楽しむ、毎日のおやつ作りには季節感のあるものを取り入れるなど、遠くに出かけなくても季節の移ろいを感じられる活動を提供することを心掛けた。
- 趣味や経験を活かした活動の中では、毎日使用する台拭きを縫う、メモ用紙を切る、ごみ箱を折るなどの役割を担っていただき、利用者が達成感を得られるよう働きかけた。また、出身地の郷土料理を作る場面では、利用者が中心となり意欲的に取り組む姿を見ることができた。

#### （2）家族や地域との関わり方について

- きらぼし銀行南町田支店、城南信用金庫すすかけ台支店で利用者作品展（隔月）フェイスブックの発信（平均月2回）を継続して行った。毎日のおやつ作りや制作物、季節行事の様子などを地域や家族へ向けて紹介した。
- 新型コロナウイルス感染症により、集合形式での開催を見送っていた家族会を、デイサービスセンター芙蓉園と合同で3年ぶりに開催した。南第1高齢者支援センターより町田市の高齢者を支える取り組みを紹介した他、少人数のグループに分かれ、日頃の悩み相談や情報交換を行った。
- LINE の運用を開始したことで、就労によりタイミングが合わなかった家族との連絡が容易になったり、些細な困りごとを気軽に相談していただけるなど、良好な関係を築く一助になっている。

#### （3）専門性の向上への取り組みについて

- デイサービス、ほのか、つるま屋、ヘルパーステーションを合わせた在宅サービス4事業所合同での研修を毎月実施した。
- LIFE 導入に向けた情報収集は進捗が無かった。導入と加算取得に向けて来年度も検討を続けていく。

#### (4) 目標利用率 60.0%を達成する

- 今年度、利用実績は 55.9%。目標利用率に対しては▲4.1%で目標未達成となった。営業自粛や利用自粛など、新型コロナウイルス感染症が直接関係している要因は少なくなったが、新規利用者 12 名に対して利用終結者が 12 名おり、利用率は昨年度比 +4.9%と大きな回復には至らなかった。終結者の内訳は施設入所 7 名、送迎範囲外への転居 2 名、逝去 1 名、身体状況によるサービスの切り替え 2 名となっている。
- 新規利用者のうち 5 名は、元々デイサービスセンター芙蓉園の利用者であり、より手厚いサービスを提供できる認知症対応型への移行を希望され契約に至っている。家族からは「活動報告の写真や連絡帳の文章から、どんな一日を過ごしていたかわかりやすい」「笑顔が増えた」など、前向きな言葉をいただくことが多かった。

## 2. 2022度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	60.0%	65.0%	70.0%
実績利用率	55.9%	51.0%	52.2%

### (2) 月別利用率実績（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数 (日)	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27	—
目標利用率 (%)	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
実績利用率 (%)	50.4	59.6	53.7	56.5	60.7	59.2	57.3	57.3	54.8	51.7	51.7	57.8	55.9
平均利用者数 (名)	5.0	6.0	5.4	5.7	6.1	5.9	5.7	5.7	5.5	5.2	5.2	5.8	5.6

## 【地域密着型通所介護つるま屋】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) サービスの提供について

- ・つるま屋に来られる地域住民の方々、保育園、小学生、保護者などへ、参加者が作成した竹細工や紙細工を提供し、交流した。また、参加者が保育園や学童へ出向き、竹細工や紙細工をお裾分けすることで参加者と地域の繋がりが深まった。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、行先や現地の状況なども考慮に入れながら、できるだけ外出活動を行うことで下肢筋力の維持に繋がった。
- ・夏と冬に、毎年町田市より提供される花の苗を参加者と現地まで受け取りに行き、定期的に「芙蓉の風（花壇）」の水撒きを行うことで、参加者が達成感を得ることができた。

#### (2) 家族や地域との関わり方について

- ・小学校の見守り活動（登下校の旗振り）は、感染状況が縮小している時期に実施することができた。
- ・街ピカ活動（清掃活動）は、定期的に少人数で実施しながら、地域との繋がりを持つことができた。
- ・新たな地域との繋がりにより、竹を取らせていただける事になり、参加者の新たな交流の機会となった。
- ・つるま屋前の花壇清掃活動に参加した。
- ・地域の方々より、花やベルマーク、日用品など、保育園からは手紙や手作りの花束をいただき交流が持てた。

#### (3) 専門性の向上への取り組みについて

- ・毎日、活動の振り返りとして、職員同士でディスカッションを行い、参加者への理解を深めた。
- ・デイ、ほのか、つるま屋の合同研修に参加し、参加者の状況に応じた対応力の向上に繋がった。

#### (4) 目標利用率65.0%を達成する

- ・今年度、利用率実績は50.0%。目標利用率に対しては▲15.0%で目標未達成となった。
- ・日頃より、参加者の状態や状況について介護支援専門員と密に連携を図った。
- ・居宅介護支援事業所に職員のみで訪問し、実績を配布し、関係性を深めた。
- ・フェイスブックの投稿（毎週）、通信の発行（毎月）を、延滞無く発信できた。
- ・4月7日、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生。7日間を営業停止にした事により、4月度の利用率が低下した。
- ・年度を通して人員不足のため新規申し込みを受け入れることができなかった。また、下半期からは事業停止の検討を進めたこともあり、引き続き受け入れを停止した。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	65.0%	65.0%	65.0%
実績利用率	50.0%	61.9%	57.2%

\*2022年度：2022年4月1日～2023年1月31日まで

### (2) 月別利用率実績（定員 10名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数 (日)	21	22	22	21	23	22	21	22	21	20	—	—	—
目標利用率 (%)	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	—	—	65.0
実績利用率 (%)	35.7	59.1	57.3	58.6	48.3	50.9	53.3	45.5	50.5	41.1	—	—	50.0
平均利用者数 (名)	3.6	5.9	5.7	5.8	4.8	5.1	5.3	4.5	5.0	4.1	—	—	5.0

## 3. 事業の閉鎖について

当事業所は、高齢者が今まで歩んできた人生において培った技能や経験を活かしながら第2の社会活動を行うことで「社会参加」「社会・地域貢献」を実感し、充実した日常生活を送ることができることを目的に、2014（平成26）年12月1日に小規模型通所介護として事業を開始した。これまで、地域住民や関係各所との深い関わりを重ねる中で、芙蓉園としての社会貢献活動の一端を担ってきた。

しかしながら、開業から約6年目を迎えた2020年からの新型コロナウイルス感染症が利用率に影響を与えたことや、人材の採用難などの理由により、事業継続の是非については度々検討を重ねてきた。

約3年に渡る新型コロナウイルス感染症は、経営的に柱となる施設系サービスに対しても大きな影響を及ぼした。芙蓉園全体としての経営を安定的かつに持続可能なものとするために、採算の確保が困難になっている当事業所の運営を2023年1月31日をもって廃止する事を、2022年11月19日理事会において決定した。

約8年に渡る事業運営の中で利用いただいた参加者の皆さま、その他多くの関係者の皆さまに対し深く感謝の意を表すると共に、これからもその関係性を大切にしていきながら総合福祉ホーム芙蓉園として地域と共に歩いていく。

<主な活動実績> 2014（平成26）年12月1日～2023（令和5）年1月31日

### 1) 交流活動

- 安全見守り活動（小学校帰宅時に横断歩道での見守り、声掛け）
- 町内会活動（夏祭り、どんど焼き、火の用心（地域巡回））
- 児童交流（保育園、小学校児童へ手作り梅ジュースや竹細工等の提供）
- 社会貢献（こども食堂へ収穫野菜や製作物の寄付）
- 地域活動（スターボックスと共に街の清掃活動、街ピカ地域清掃活動）
- 繋ぐ交流（「参加者と家族と地域を繋ぐ交流会ポラリス」開催）
- 近隣小学校「地域を知る授業（2019）」の訪問場所として選ばれる（3年生全員対象）
- 「町田市花壇コンクール」（芙蓉の風：芙蓉園の花壇）  
ラグビー賞（2019年度）、国際スポーツ大賞（2020年度）受賞
- 市民団体主催「ハロウィンまち歩き（2019）」に参加（児童150名と交流）
- 近隣小学校「大王松復興バザー」綿菓子出店（売上金寄附）
- 南地区協議会「南カフェ」利用者の製作物紹介
- 近隣宅の樹木等収穫手伝い（梅、柿の収穫を手伝い）

### 2) 雑誌掲載

- 2015年4月「最新介護経営介護ビジョン（日本医療企画）」
- 2020年12月「ケアワーク（介護労働安定センター）」
- 2021年11月「月間デイ（株式会社QOLサービス）」

### 3) 受賞

- 2019年9月「アクティブ福祉 in 東京 '19」東京都高齢者福祉施設協議会主催  
優秀賞受賞『デイサービスが考える地域密着型サービスとしての取り組み』

## 【ヘルパーステーション芙蓉園】

### 1. 2022年 取り組み実績

#### (1) サービスの提供について

- ・調理技術の向上を目的とした調理研修会は、感染症の影響等により実施場所の確保が困難となり、未実施となった。2023年3月末現在、調理サービスは登録者54名の内12名の方が利用されている。来年度は再開を目指し取り組んでいく。
- ・介護保険外の自費サービスについて案内を行ったが、通常の「あったかサポート」（通院介助）以外のニーズは無かった。

#### (2) 家族や地域との関わり方について

- ・今年度はコロナ禍のなか、地域が主催する取り組み自体がなく、行事等の中止により参加はなかった。
- ・関係各所との情報を密に行うことで、地域のニーズや状況を把握した。

#### (3) 専門性の向上への取り組みについて

- ・登録ヘルパーへ在宅合同研修（デイ・ほのか・つるま屋・ヘルパー合同）への参加を促した。参加できなかった登録ヘルパーに対しては、研修プリントの配布を行った。
- ・ヘルパー研修会の活動風景や職員情報等を「ふよナビ（園独自の求人サイト）」に掲載して情報を発信した。
- ・カンファレンス等を通じて情報を共有する事で、担当ヘルパー間でのサービスのバラつきを改善し、意欲の向上に繋げることができた。
- ・登録ヘルパーへ「虐待の芽チェックリスト」及び「接遇チェックシート」の記入を依頼し、自己点検や事故発生防止の啓発に努めた。

#### 【年間計画にある必須研修の実施】

	内 容
2022年 4月	運営方針・倫理
2022年 6月	接遇・マナー研修
2022年 7月	食中毒の感染予防・蔓延予防研修
2022年 9月 2022年 10月	認知症ケア研修、メンタルケア資料配布・虐待防止研修
2023年 2月 2023年 3月	緊急時の対応研修・法令遵守（契約更新説明会）



#### (4) 目標件数・時間数を達成する

- ・コロナ禍のなか、ケアマネジャーと会えない事業所もあったが、感染症対策を講じながら、実績や利用者の報告書等はできる限り直接訪問による手渡し形式で実施した。  
(年 12 回訪問)
- ・ヘルパーステーション便り(情報誌)を定期的(年 4 回)に発行し、ホームページにも掲載した。
- ・利用者の援助終結や増回・曜日変更等に伴う勤務バランスの偏りを適時調整し、新規利用者のニーズに迅速かつ柔軟に応えられるようにバランス調整を行った。

## 2. 2022年度 統計

### 1) 利用率過去 3 年間の推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標件数	5,900件	5,657件	9,140件
目標時間数	5,675時間	5,484時間	9,140時間
実績件数	5,261件	5,794件	7,086件
実績時間数	4,645時間	5,641時間	6,972時間

### 2) 自費サービス(あったかサポート)

(時間)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17.5	28.0	32.0	26.0	31.5	26.0	27.5	31.5	38.0	29.5	28.0	37.0	352.5

# 【居宅介護支援事業所芙蓉園】

## 1. 2022年度 取り組み実績

### (1) ケアマネジメントの資質向上

- 1) リ・アセスメント基本支援シートを活用し、課題抽出・情報整理を行うことで、利用者や家族のニーズに沿ったケアプランを作成する。
  - ・アセスメントの書式をリ・アセスメント用紙に一本化し、課題分析を体系的に実施することにより、聞き取りの効率性が向上し、より詳細にご利用者のニーズを知り、ケアプランに反映することができるようになった。
- 2) ICT を有効活用することで、的確な情報整理を行い、かつ業務の標準化や効率化を目指す。
  - ・モニタリングや担当者会議などの記録を、その場でタブレットに記録し、記録時間を短縮することができた。また事業所間の連絡に、メールやラインを多用することで、業務効率の向上と、ペーパーレス化を進めることができた。
- 3) 所内会議・所内研修を定期的実施することで、スキルアップを図る。
  - ・事例検討やケース検討等の研修を定期的実施した。更に、外部研修にも可能な限り参加し、各ケアマネジャーのスキルアップに努めた。

### (2) 目標件数の達成

- 1) ケアマネジャー毎の持ち件数のバランスを考慮しながら、積極的に新規の受入を行う。
  - ・目標件数、介護 1575 件、予防 285 件（月平均介護 131 件、予防 24 件）に対して実績は、介護 1571 件、予防 267 件で目標未達となった。
  - ・新規のケースについては、従来通り、事前に困難ケースとの情報があっても、基本的には断らず受ける姿勢を堅持した。また、予防についても、可能な限り受けるよう努めた。
- 2) 看取りやその他困難ケースも受け入れができるよう、各ケアマネジャーのスキルアップを図ると共に、担当ケアマネジャーだけに負担増がかからないよう、事業所内での連携、協力、情報共有を徹底した。
  - ・週一回の所内会議、毎日の朝礼等で、定期的にケース検討を実施し、情報共有、助言、適宜サポートを行うことで、各担当ケアマネジャーの負担軽減を図った。

### (3) 計画的な人材育成

- 1) 事業所全体及び個別の年間計画を策定し実行することで、知識と技術の向上を図る。
  - ・職員の退職等の事情で、計画を完全に遂行することはできなかったが、可能な範囲で外部研修に研修に参加する等で、各自、知識、技術の向上に努めた。
- 2) OJT：所内会議にて個別事例を用いた事例検討を行う。（月 1 回）
  - ・職員の退職や、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できない月もあったが、概ね月 1 回事例検討を実施し、マネジメント力の向上を図ることができた。
- 3) OFF-JT：人事考課表の際、具体的目標を掲げ、自己評価及び次なる課題の抽出を行う。
  - ・各自の掲げた自己目標については、概ね習得することができた。

#### (4) 地域包括ケアへの取り組み

- 1) 事業所内で地域包括ケアへの理解を深める取り組み（研修等）と、高齢者支援センターとの連携、情報共有を行う。
  - ・支援センターと情報を共有することで、課題のあるケース（徘徊等）について、必要時に連携を取り、迅速に対応することができた。
- 2) 高齢者支援センターが開催する会議、他の居宅介護支援事業所との情報共有の場、共同研修等に積極的に参加する。
  - ・昨年度に引き続き、オンラインでの開催が大半だったが、高齢者支援センターが開催する会議、他の居宅介護支援事業所との事例検討、情報共有の場に参加することで、更に広い視野、柔軟な価値観を持つことができた。

## 2. 2022年度 実績

### (1) 統計

#### 1) 利用率過去3年間の推移

(件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
目標	要介護	120	120	120	115	121	127	133	139	145	145	145	145	1,575
	要支援	7	7	7	27	28	29	30	30	30	30	30	30	285
実績	要介護	101	111	107	107	128	133	135	144	147	148	154	156	1,571
	要支援	15	26	25	24	25	23	22	22	22	22	21	20	267
総件数		116	137	132	131	153	156	157	166	169	170	175	176	1,838
介護支援専門員数		7	7	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	—
1人当たりの 担当件数 (常勤換算)		15.5	17.7	19.9	19.8	23.4	24.1	29.2	31.0	31.6	31.8	32.9	33.2	—

## 【南第1高齢者支援センター】（小川あんしん相談室）

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### （1）高齢者支援センターの機能強化と多職種連携の促進

##### 1) 他の専門分野との連携

- ・南地区協議会が多機関と協働し実施する「南あんしんプロジェクト」で、地区社協立ち上げに向けた話し合いに参加した。町田市社協、地域住民、民生委員、子供、障がい、高齢者の各支援センターが集まり、意見を重ねる中で、関係作りや連携強化を進めることができた。また、地域ケア会議やケアマネジャー勉強会を通じ、保健所や障がい者支援センター、警察などと顔の見える関係づくりができた。

#### （2）介護予防・健康づくりのための通い場の充実

##### 1) 通い場の充実

- ・町トレ（町田を元気にするトレーニング）情報交換会を開催し、その後2グループが活動を再開した。活動再開時には応援講座の実施や地域住民の要望に耳を傾け、重点地域の鶴間においては、フレイル予防の観点から町トレのほか、モルックの普及啓発を行い運動機会の創出に繋げることができた。

##### 2) 地域の医療機関との医療介護連携

- ・町プロ（町田市安心して暮らせるまちづくりプロジェクト）と共に「町田の医療と介護を知ろう！ウォークラリー」を開催。病院、歯科、薬局、介護事業所等への挨拶回りを通じて関係作りを進めるとともに、個別の相談にも繋がった。
- ・「南第1高齢者センターニュースレター」に掲載するコラムの一つとして、町田慶泉病院へ、骨粗鬆症の予防と改善や骨折の防止を目的としたOLS（骨粗鬆症リエゾンサービス）に関する寄稿を依頼し、地域に発信した。また、10月の月間イベントでも骨粗鬆症予防をテーマに同院へ講師を依頼するなど、年間を通じて医療との連携を図ることができた。

#### （3）認知症とともに生きるまちづくりの推進

##### 1) 認知症当事者やその家族の居場所づくり

- ・認知症サポーター養成講座修了者や認知症当事者が集まる「オレンジみなみ風」では、6月に昨年度の読み聞かせ会の振り返りを実施。夏には参加者が書いたイラストで作成した絵葉書を用いて近況報告を行ったほか、3月には芙蓉園会議室から見える満開の桜の下、来年度に向けた話し合いを行った。広報誌や総合相談での呼びかけで、認知症当事者やその家族の参加も増えており、話し合いの機会自体が居場所、通い場となっている。
- ・鶴間小学校にて実施した認知症サポーター養成講座では、事前に当事者より認知症になってからの生活についてインタビューした内容を当日子ども達へ伝達した。ありのままの姿を肌で感じてもらうことにより、認知症について正しい知識を知ってもらう事ができ、さらに当事者の活躍の場をつくる事ができた。

- ・11月に行われたつるまパーク大作戦では、支援センター職員と共に認知症当事者へスタッフとしての参加を依頼し、地域の方との触れ合い等、活躍していただく事ができた。
- ・家族介護者に関しては、定期的に臨床心理士相談や家族介護者交流会を実施し、家族が抱える介護負担の軽減に繋げることができた。また家族介護者教室では、介護者のニーズを踏まえたものとして、施設入所に関する情報提供や、腸の健康や栄養をテーマに開催。いずれも、多数の方の参加があり、関心の高さが伺えた。

## 2) 認知症への正しい理解の促進

- ・認知症サポーター養成講座を4回実施した。オンラインでは働く世代や、海外からの参加もあり、子どもから高齢者まで幅広い年代の担い手が増えた。
- ・鶴間小学校では、講座終了後に保護者向けに、町田市作成の「知って安心認知症」を配布し、高齢者支援センターの周知とダブルケア世代に対して、認知症理解の促進を行った。

### 【2022年度 認知症サポーター養成講座】

開催日	会場	対象者	参加人数
11月 7日	ZOOM	地域住民、東急ストア、神奈中観光社員など	15名
11月 8日	鶴間小学校	鶴間小3年生	96名
11月30日	鶴間会館	鶴間フレンズ（町トレ団体）	20名
12月 3日	原クラブ会館	原町内会役員	16名

## (4) 職員教育の充実とスキル向上

### 1) 専門性・実践力の向上

- ・今年度は包括職員としての専門性の向上のため、センター内で地域ケア会議についての勉強会を開催した。経験年数が浅い職員もいるため、“地域課題とは何か”“様々な会議体の違い”などを基礎から学び、これまで南1で実施した地域ケア推進会議のテーマを再考証し、今年度の地域ケア推進会議をセンター全体で企画・検討していくことができた。
- ・毎朝のミーティングでは新規や継続相談に関する報告及び相談を行い、情報共有を行うとともに、随時、意見交換を行い、相談援助技術の対応力強化を行った。
- ・困難ケースは、ホワイトボードを活用して事例検討会を実施した。担当相談員や地域のケアマネジャーが一人で抱え込むことなく、気軽に周囲に意見を求めることができ、結果、支援の方法が広がり、実践力の向上とスキルアップに結び付いた。

### 2) チーム力の向上

- ・虐待や困難ケースは複数名の職員で関わり、センター全体でも随時、進捗の共有と支援方針の検討を行った。3職種それぞれの視点でケースに関わり、支援内容やその経過により、専門職を変更するなど臨機応変に対応を行った。こうしたケース検討や事例検討会を通じて、自分とは違った視点の意見に対しても、理解し受け入れることができるようになり、チーム力の向上に繋がっている。
- ・地域に向けた教室開催や地域ケア会議の運営については、それぞれの職種や役割（生活支援コーディネーター・地域介護予防推進員・見守り相談員・主任ケアマネジャー・認知症地域支援推進員など）を超えて、チームで協議を行った。

## (5) 小川あんしん相談室の運営

- 1) 高齢者に関する総合相談・権利擁護・認知症高齢者に関する相談、支援の実施
- ・地域の身近な相談場所としての役割を担い、高齢者支援センターと同様に総合相談を行った。飛び込みの来所や電話相談も増え、ランチとしての周知が広がっている。
  - ・前年度に引き続き、町田市保健所からの委託業務として、ワクチンのオンライン予約サポートを実施した。

6月13日～ 7月 9日	4回目ワクチン
10月26日～12月12日	オミクロン株対応ワクチン

- ・月1回「オンライン相談拠点」を開催した。センター職員やオンラインが得意なボランティアの方に協力いただき、スマホやタブレット初心者の高齢者に向けて、使い方をレクチャーした。スマホカメラやLINEを活用できるようになり、家族や仲間との交流促進につながった。

## 1. 2022年度 統計

### (1) 総合相談

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	651	568	553	616	572	583	698	737	679	710	645	729	7,741

### (2) 予防プラン件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
直轄	83	75	77	81	82	78	75	73	74	71	66	66	75
委託	160	171	171	165	160	162	163	168	164	165	162	165	165
合計	243	246	248	245	242	240	238	241	238	236	228	231	240

## 【総務課】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 人材確保

- ・常勤職員の入職者は20名、退職者は17名であった。退職者は、前年度の26名から減少はしたが、離職率10%未満の目標に対しては実績13.8%となり、未達成となった。
- ・入職者に対する定期面談の機会を作ることができなかった。来年度に向けて、課として実現可能な、定着支援の検討を行う。
- ・中途採用は、成果報酬型求人サイトを中心に、ふよなび（園独自の求人サイト）、ハローワーク等を活用した。コロナ禍等の理由により学校訪問を行う事が難しかった。来年度は計画的に進めていく。
- ・外部の就職面接会に、介護課や福祉課と連携しながら参加した。
- ・新卒外国人を1名採用することができた。生活面、住居等の支援を他拠点の職員と協力して行った。これからも働きやすい環境の構築に努めていく。

#### (2) 業務の標準化と効率化

- ・業務を共有化し、担当の職員以外に複数の職員が関りをもって業務を遂行した。
- ・他部署と連携をとり、業務の流れが円滑に進むように、事務所の席の移動を行った。
- ・業務のミスの防止と他業務の知識を得るために、ダブルチェックを徹底した。
- ・「新型コロナウイルス感染症流行下における介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業」の個別協議、補助対象経費の申請を課内で分担をして行った。「雇用調整助成金」その他の補助金の申請についても、課内で情報の共有を行い、滞りなく処理を行った。

#### (3) 人材育成・各事業所との連携強化

- ・会計基礎研修、育児休業改正研修、サービスマナー研修等の配信研修に参加し、課内で研修内容の共有を行った。
- ・他部署、職員からの依頼については、課内メール等で共有を行い、協力体制を整えた。
- ・定期的な課内ミーティングが実施できなかったため、来年度は課内研修と併せ計画的に行っていく。

#### (4) 設備・環境等の整備

- ・計画通りに、全館の自動火災報知設備の更新を行った。
- ・改正道路交通法への対応のため、アルコールチェッカーを導入した。

## 【栄養課】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 健康的な食事提供及び食環境の整備

- コロナ禍などにより管理栄養士の他職種カンファレンスへの出席は部分的となったが、計画書策定については、照会によって利用者一人ひとりについて心身機能や疾病に関するアセスメントを行った。
- 利用者の食事提供に支障を来さないよう、日頃より厨房機器の動作確認や経年劣化に関する状態確認を行い、今年度はコンベクションや冷蔵庫の機器を更新した。
- 利用者の使用する食器の状態を確認しながら、必要に応じて新調した。特におせち料理の食器や主菜皿は利用者から好評を得た。食器の見え目が変わる事で、食欲が増進し喜んでいただくことができた。
- 防災食の管理については、無駄が出ないように賞味期限切れ前に備蓄分を食材として消化すると共に、引き続き災害の備えとして新たな必要量の防災食を購入し、防災倉庫へ保管した。利用者の食の安全と、健康のため、今後も継続的に管理していく。
- 食材料費の高騰により業者との各種交渉に努めた。経費節減により利用者へ提供する食事の質が低下することがないように、食材等を工夫しながら献立の検討を行った。

#### (2) 厨房業務の作業効率及び労務の改善

- 厨房業務をマニュアル化し、手順を可視化した事で情報を共有しやすくなった。今後は必要に応じて更新しながら、全体として業務の標準化、効率化を図っていく。
- 日頃から、情報共有として使用しているホワイトボード（食形態記載）や、利用者毎の主食や副食を並べる際に使用する食札の表記を分かり易くした事により、作業効率の向上に繋がった。
- 一人ひとりの導線を確認し、無駄を省く事で、担当箇所によっては割り当てる人員を削減することができた。



## 【地域貢献事業】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 地域の方が活動できる居場所作り

- 5階機能訓練室を地域の方々に活用いただく計画であったが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、地域の方々の園内活動については継続して利用制限する形とした。

#### (2) 認知症理解への促進

- 認知症の人やその家族の居場所作りを行う、南町田グランベリーパーク「まちライブラリー」へ本を寄贈した。(南第1高齢者支援センター)
- RUN 伴(認知症の人とそうでない人がタスキをつなぎ日本各地を走って横断するイベント)への参画を予定していたが、エントリー時期に、特養及び短期入所において複数名の新型コロナウイルス感染者が発生したことにより、今年度は参加を見送った。

#### (3) 児童福祉への参画

- 小学生を対象とした介護の体験教室「まちけあ☆キッズ」(町田市介護人材開発センター主催)への参画を計画したが、新型コロナウイルス感染症対策として、地域の方々の園内活動を制限したため、今年度については開催を見送った。結果的に、開催時期である8月度には複数フロアで感染者が発生する事となった。
- 近隣小学校へ発行する教育教材「産経子ども新聞」(新聞社)へ参画した。
- こども食堂「みんなでごはん」に協賛金を提供した。「みんなでごはん」はコロナ禍による生活困窮者の一助となっている。

#### (4) 地域団体との関わり

- 2023年3月12日、原町内会防災訓練に芙蓉園職員4名が参加した。消防隊による災害時の留意点に関する説明や、町内会員による発電機の操作方法及び日頃からの備えなどについての解説によって、基礎知識を学ぶ機会となった。

## 【実習生】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 社会福祉援助技術現場実習（福祉課）

学校名	実習期間	計画	実績
日本福祉大学	2022年7月1日～2022年8月31日	1名	0名
桜美林大学	2023年1月23日～2023年3月9日	1名	0名

#### (2) 介護福祉士介護実習（介護課）

学校名	実習期間	計画	実績
町田福祉保育専門学校	2022年10月3日～10月7日	1名	0名
田園調布学園大学	2022年8月8日～8月30日	1名	0名
	2023年2月6日～3月8日	1名	0名
早稲田速記医療福祉専門学校	2022年6月13日～6月28日	1名	0名
	2022年10月17日～11月10日	1名	0名
アルファ医療福祉専門学校	2022年6月1日～6月30日	1名	0名
	2022年9月29日～10月31日	1名	0名

#### (3) 教員免許課程介護等体験

- 1) 東京都社会福祉協議会 教員免許特例法に基づく介護等体験の受け入れ（1名5日間）
  - ・新型コロナウイルス感染症予防のため、受け入れを中止した。

#### (4) インターンシップ職場体験

- 1) 南大沢学園（1名：3日間）
  - ・新型コロナウイルス感染症予防のため、受け入れを中止した。

#### (5) その他

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、芙蓉園の各事業所における実習生の受け入れを全面的に中止した。
- ・養成校からの実習生の受け入れ要請に対して適宜連絡を行い、関係性の継続を図った。
- ・養成校や近隣施設との意見交流会にオンラインで参加し、情報共有を図った。
- ・介護員1名、介護福祉士実習生指導者講習会を受講し修了した。

## 【ボランティア】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) イベント委員会の行事に必要なボランティアをコーディネートし、各行事を遂行する。

- 感染症の状況を踏まえ、余興ボランティアに活動いただくことはできなかった。しかし、職員ボランティアが、クリスマスの余興として生演奏を披露し、利用者に喜んでいただく事ができた。
- 特養の利用者に季節感を感じていただけるよう、中庭での外気浴や花鑑賞を定期的に実施した。
- ボランティアコーディネーターが、フロアの企画するイベントのサポートを行った。

#### (2) 各クラブ活動に関わるボランティアと連携をとり、各クラブが円滑に遂行できるよう調整を図る。

- 各クラブ活動のボランティアは再開できなかったが、ボランティアコーディネーターが各クラブ活動の個別対応を継続し、日常生活の質の維持に努めた。

#### (3) 感染症の状況を見ながら段階的なボランティアの受け入れを検討する。

- 1年を通して、ボランティア活動を解除する事が出来なかったが、休止中のボランティアに対してボランティアコーディネーターが季節毎に近況を伝える手紙を送ったり、永年表彰の方へ感謝状を贈るなど、繋がりを継続した。
- 感染症がようやく終息に向かった3月末頃、新型コロナウイルス感染症対策本部において制限解除に関する検討会が開催され、その中でボランティア活動の再開について検討が行われた。結果、来年度に向けて間接的ボランティア（利用者衣類の裁縫など）の活動から段階的に再開していく事となった。

# 【リスクマネジメント委員会】

## 1. 2022年度 取り組み実績

### (1) 類似事故の防止

- ・類似事故の防止対策として「事故対策連絡メモ」を活用した。ミーティングで決定した事故対策を連絡メモ上で共有しながら、適切な対策であるかを評価し、必要に応じて対策を変更した。結果、事故対策に関する共有が以前より浸透した。対策の評価に対する意見が少数であったり、対策の実施状況に不足が見られる事で評価にまで至らない点が課題となった。来年度に向け改善に取り組んでいく。
- ・ヒヤリハットやKYTの活用が確立できていない為、事故防止に繋がるよう早急に検討し、気づきの強化と情報共有の徹底を行う。

### (2) 身体拘束やセンサーマットの適切な使用に向け、検討や評価を行う

- ・年度中、3名の利用者の身体拘束を解除（逝去2名、状態の改善1名）した。年度末での身体拘束の実施者は4名となっている。
- ・研修については「高齢者のリスクについて」「園外搜索訓練」「身体拘束についての周知」「センサーマットについて」をテーマに4回実施した。今年度は資料配布とアンケートの集計による実施となった為、来年度は集合型での開催を目指す。

### (3) 利用者の所在が不明な時（離設等）に、全職員が適切な行動をとれるよう取り組む

- ・日中搜索についてはフロア内の搜索から園外搜索までの流れに関するマニュアルをほぼ完成させることができた。感染症対策の為、搜索訓練を実施する事ができない時期もあったが、マニュアルについては適宜修正を行った。夜間搜索については職員の招集方法が課題となる。感染症対策発生時についてはいまだ手付かずのままとなっている為、早急に検討を始める必要がある。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 事故発生（特養） 町田市提出分 (延べ人数)

分類	人数	分類	人数
転倒〔うち骨折〕	15〔6〕	内出血	1
転落〔うち骨折〕	1〔1〕	離設	1
外傷（要因未特定）〔うち骨折〕	4〔2〕	骨折（原因未特定）	2
皮膚剥離	1	予防接種の重複	1
		合 計	26〔9〕

### (2) ヒヤリハット（特養） (延べ人数)

分類	人数	分類	人数
転倒	170	衝突・接触	1
転落	192	チューブ類	29
誤薬	32	食事提供・誤食	6
異食	28	外傷（職員要因）	58
外出	9	皮膚剥離	3
窒息・溺れ	6	内出血	10
自傷行為	1	その他	33
		合 計	578

### (3) 身体拘束状況（特養） (延べ人数)

分類	人数
ベッド4点柵	1
ミトン	3
抑制着	1
合 計	5

※1名はミトンと抑制着を併用

## 【高齢者虐待防止委員会】

### 1. 2022度 取り組み実績

#### (1) 虐待の未然防止

- 5月～6月にかけて、法人の「虐待防止に関する指針」の確認と虐待相談対応に関する基本フローの見直しを行った。7月には事例をもとにしたシミュレーションを実施し、園内に周知した。
- 12月に職員全体研修（動画）「高齢者の虐待防止と権利擁護」を実施した。また各部署で虐待防止に関わる内容の研修を実施した。
- 2023年1月より虐待防止をテーマとした職員への啓発ポスターの掲示を行った。今後も、3か月ごとの継続的な掲示を決定した。

#### (2) 虐待の早期発見

- 4月より職員の人事考課の期初面談時に、言葉や身だしなみに関する「接遇チェックシート」、また、期末評価時には「虐待防止の芽チェックシート」により、職員が自己点検を行う機会を設けた。
- チェックシートから接遇、お客様サービスマナーを課題として取り上げ、委員会内で研修内容を共有して学習した。
- 職員のメンタルヘルスについて委員会内で取り上げ、ラインケアに関し、管理者やリーダーの役割について学んだ。4月にメンタルケアが必要な職員について産業医への相談を実施した。

#### (3) 虐待への迅速かつ適切な対応

- 法人の「虐待防止に関する指針」に沿って委員会を定期開催した。また、虐待相談事例発生時には臨時委員会を開催して内容を協議。行政への通報、再発防止策について対応した。
- 2021年10月に発生した苦情相談（虐待事例）で、心理的虐待の認定を受け、改善計画を実行。2023年3月までの評価を行政へ提出した。再発防止について委員会にて引継ぎ対応を継続する。

## 【防災対策検討委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) BCP（事業継続計画）の更新

- 保存水、防災食、非常用発電機を購入した。保存水については賞味期限を統一し、管理の簡略化を行った。防災食については、5日分の食料を購入、メニュー作成を完了した。
- 電気等ライフラインが復旧するまでの間、使用可能な非常用発電機を購入した。
- 備品等の残数、配置場所を「防災MAP」にて一括管理を行うこととした。

#### (2) 消防計画書の更新、消防設備の更新

- 自動火災報知設備の更新を完了し、動画にて共有を行い、職員に周知した。
- 消防計画について、今年度の変更はなかったが、来年度以降は計画書の更新に着手する。

#### (3) 防災に関する教育及び訓練（シミュレーション）の実施

- 自衛消防訓練（年2回義務）が電子申請可能となり、申請方法を共有した。感染症の影響もあり、実施に至らない部署もあったため、来年度は計画的に実施していく。
- 福祉避難所開設の机上訓練を行った。行政への伝達方法等の確認を共有した。
- 炊き出し訓練を実施。非常災害に備えて、防災食の炊き出し訓練を行った。
- 消火器訓練の実施。新入職員向けに消火器訓練を実施した。

## 【感染症対策委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 新型コロナウイルス感染症に関する予防体制の確立

- 手指消毒の徹底が出来るよう消毒液の設置を増やした。また、週1回のPCR検査を継続することで、職員の意識向上に努めた。
- 職員と利用者について、毎日の検温を実施するとともに、健康状態の把握に努めた。
- 濃厚接触にあたる可能性がある場合は、前後状況を確認すると共に積極的に新型コロナウイルス抗原検査を実施し、感染拡大の予防に努めた。
- 都内や市内の感染状況に合わせ、面会やボランティアを含む外来者等の立ち入り制限について段階的解除に関する検討を行った。
- 感染症発生人数にあわせた感染レベル表を用いて、各部署の対応や制限内容について、都度検討し更新を行った。

#### (2) 事業継続計画（BCP）の作成及び園内への周知徹底

- 各事業所のBCPは策定中の事業所が多く、来年度に向けて完成を目指し、引き続き取り組んでいく。
- 陽性者及び濃厚接触者の療養期間等については、最新情報を基に芙蓉園版としての条件を定め、周知した。
- 同居家族で陽性者が発生したケースについては、家庭内感染予防として、該当職員に対して宿泊施設（レオパレス）の貸与やホテル滞在費用の補助を行った。
- クラスターの発生後は振り返りを行った。結果、ディスプレイの導入や栄養補助食品の追加、他フロアや他部署からの職員の派遣協力の中止などを決定しBCPを更新した。それらを周知に繋げる伝達方法について改善していく事が今後の課題となる。

#### (3) 新型コロナウイルス感染症に関する教育研修及び訓練(シミュレーション)の検討、実施

- 年度初めに、入所系を対象とした初動の机上シミュレーションを実施した。
- クラスター発生時に、東京都即応支援チームの派遣による指導を依頼した。感染症対応が異なっていた部分があり、その後の対応に活かす事ができた。
- 年度末、同チームによる感染症研修を依頼。多くの職員が受講した。
- 新型コロナウイルス感染症の基礎知識と予防対策、ガウンテクニックの実技、ゾーニングの考え方の全体研修を年2回実施した。
- 衛生管理委員会と協働し、ガウンテクニックのミニ研修を実施した。



## 【 衛生管理委員会 】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 施設の感染予防対策

- 毎日、全フロアの手すりやドアノブの消毒を行った。
- 各フロア的环境整備（清掃、消毒作業）は、各々で担当を決めて行った。不十分な個所を確認し改善しながら、これからも継続的に実施していく。
- 1年を通して園内でクラスターが7回発生した。終息後は、マニュアル通りに清掃や消毒を徹底して行った。
- 8月にクラスターが発生したタイミングで、東京都即応支援チームに指導を要請した。指導内容に基づき、ガウンテクニック（フルPPE）などのマニュアルを修正した。今後も適切な対応ができるよう必要に応じて修正を加えていく。
- 新型コロナウイルス感染症の対応を優先したため、ノロウイルスや疥癬等のマニュアル修正までは行えず、来年度の課題とした。

#### (2) 感染予防対策の教育

- 「新型コロナ陽性者発生時の準備と対応（マニュアル）」を委員会内で読み合わせ、迅速な初動対応が行えるよう努めたが、読み合わせだけでは十分な理解が得られなかった。周知方法を検討しながら、引き続き取り組んでいく。
- 委員会内において委員がPPEの着脱について学んだ後、委員がそれぞれの部署に持ち帰り、職員に対して指導を行った。しかし、職員個々に異なる修正点に対する細やかな指導までには至らなかった。
- 「感染症対策について～新型コロナ予防対策～」、「血液感染症について」の研修（パワーポイント視聴、アンケート記入）を実施し、感染症対策の理解に繋げることができた。
- 「食中毒ポスター」、「感染症予防ポスター」を、流行時期に合わせて作成、掲示した。
- 「認知度テスト」へ、新たに新型コロナウイルス感染症の内容を追加した事で、対策や対応について学習する機会を設けた。
- 「感染症通信」は年4回発行予定していたが年2回の発行となった。

#### (3) 医療的ケア実施体制

- 痰吸引や胃瘻ケアのマニュアル修正を行い、テストを行った。
- 一次救命処置、心肺蘇生とAEDの理解については、プリントを用いたテスト方式で実施した。

## 【褥瘡防止委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 排泄班

- 1) スキンケアについての理解を深め、皮膚の異常の早期発見と対応に努める。
  - ・オムツメーカーによる ZOOM 研修に参加し、知識の向上を図った。
  - ・委員会内研修を年2回（「下剤について」「塗布薬について」）実施した。委員会内では知識の向上に繋がったが、得た知識を他職員に伝達する研修ができず、来年度に向けた課題となった。
- 2) 外部講師によるオムツ交換研修に参加し、オムツの性能を理解し実践する。
  - ・コロナ禍の影響により、外部講師の研修は年1回の実施となった。使用しているオムツの特徴や性能の理解が深まり、適切なオムツ交換へと繋がっている。
- 3) ブレーデンスケールを適正に評価し、褥瘡を未然に防ぐことにつなげる。
  - ・ブレーデンスケールの導入、褥瘡治療計画書の運用は定着しつつあるが、作成や更新作業に時間を要するため、周知活動を継続していく。
- 4) 褥瘡及び治療計画書について職員全員が運用の理解ができるよう繰り返し説明する。
  - ・委員会内で計画書の運用方法について読み合わせを年2回実施し、理解を深めた。新人職員への伝達、研修システムの確立が今後の課題。

#### (2) ポジショニング班

- 1) 褥瘡治療計画書の管理を行い、褥瘡ハイリスク者に対し迅速に対応する。
  - ・褥瘡治療計画書の更新が確実にできているか確認し、連絡メモや直接伝達にて促しを行うことができた。各班毎に受け持ちを決め、ダブルチェックの体制で行っているが、徹底には至っていない為、今後に向けての課題となる。
- 2) ポジショニングマニュアルの周知と活用の定着化を図るために、研修を実施し理解を深める。
  - ・ポジショニングマニュアルを用いた研修を実施した。新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生した際は研修を中止したため、計4回の実施に留まった。
- 3) 体位変換チェック表を活用し、適した体位変換が行えているか確認することで褥瘡予防に努める。
  - ・体位変換チェック表の管理は連絡メモを活用し、チャート保管を行う事ができる職員が増えた。チェック表を活用する事により、同一姿勢になってしまう利用者が減少し、褥瘡予防に繋がった。

#### (3) 栄養班

- 1) 食事量や体重・採血データより栄養状態の把握を行い、褥瘡計画書に反映させることで計画的な褥瘡の予防と改善に努める。
  - ・各データより栄養補助食品の種類を選定と評価を実施した。また、栄養補助食品提供者を職員が確認できるよう褥瘡発生者リストと連動し、意識向上に努めた。

- 褥瘡の発生機序や褥瘡の段階にあった必要栄養素について外部講師による研修を行った他、委員による口腔摂食嚥下、栄養に関する勉強会を実施し、知識の向上に繋げた。
- 2) 摂食嚥下に関する知識を高め、より安全な食支援に繋げる。
- 昨年度から検討中であった食事提供時のスプーンの変更を行った。また、利用者の食事形態については、フロアからの意見を吸い上げ多職種と連携しながら嚥下評価を行い、安全な食事の提供と支援に繋げた。
- 3) 口腔ケアの重要性を理解し、日常の援助の中で実践することで、誤嚥性肺炎の予防に繋げる。
- 口腔ケアが十分に出来ない利用者の口腔環境の改善のため、できる限り歯科往診へ繋がられるよう家族へ説明を行った。
  - 歯科往診されていない利用者をピックアップし、誤嚥性肺炎既往の方や口腔ケアの困難な方を重点的に日常ケアが出来るように検討したが、リストアップに留まり周知やケアに至らなかった為、来年度の課題となる。
  - 口腔ケアマニュアルを用い、摂食嚥下の理解に努めたが十分ではなく、またケアマニュアルは実践しやすい内容に修正する必要があり、着手を始めた。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 褥瘡月別発症数

(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
I度	3	1	1	3	1	1	3	3	3	3	2	7	31
II度	8	8	7	5	5	5	6	7	6	4	6	3	70
III度	1	1	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	8
IV度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12	10	9	9	8	8	9	10	9	7	8	10	109

### (2) 褥瘡部位別発症数

(延べ人数)

発症部位	I度	II度	III度	IV度	合計
外果部・足・踵	4	5	0	0	9
腸骨	2	0	0	0	2
大転子部	1	1	0	0	2
足趾部	2	6	1	0	9
仙骨・尾骨・臀部	1	11	0	0	12
下腿	2	2	1	0	5
肩甲骨	1	1	1	0	3
手指	0	1	0	0	1
合計	13	27	3	0	43

(2023年3月末日現在)

## 【ケアプラン委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) アセスメント力の向上

- 定期カンファレンスのアセスメント、3か月評価、状態変化時のアセスメント表作成の依頼など、徹底した管理を継続した事で、期限内の作成や提出が定着した。
- 介護員を対象に、年間を通して新任研修や現任研修を実施した。ケアマネジメントプロセスの理解や内容の充実により、アセスメント力の向上に繋げる事ができた。

#### (2) 多職種連携の充実

- ケアプラン委員会において、開催毎に「気になる利用者情報共有」の場を設け、状態変化のある利用者の情報を共有する事で、ケアプランの見直しや看取りケアへの移行などを迅速に行う事ができるようになった。
- 2023年度の加算検討については、LIFE（科学的介護情報システム）の導入に向け、下半期より具体的にDBD（認知症行動障害尺度）、評価方式BI（ADL維持等加算）の確認を多職種カンファレンスにて行った。
- 現在取得している加算内容の確認や、新たな加算について各課と連携しながら委員会内で研修を開催した。

#### (3) 看取りケアの充実

- 看取りケアに関する全体研修を年2回実施した事で、芙蓉園看取りケアの取り組みについて理解を深める事ができた。
- 多職種で「看取りの指針」を参考にしたことにより、状態変化の根拠づけや早期の看取りプランへの移行に役立つ事ができた。  
(看取り介護加算：2021年度 28件 → 2022年度 39件)

## 【イベント委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 利用者の心身状態に合った、参加しやすいイベントを提供する。

- ・フロア行事以外にも、利用者の嗜好や希望にあったアクティビティ（塗り絵・折り紙・カラオケ・体操など）を提供した。また、利用者が作成した作品を居室やフロアに飾った事で、室内にいても季節を感じられるようになった。

#### (2) 家族や利用者同士のコミュニケーションが深まる機会を提供する。

- ・4月から5月にかけて、園庭ガーデニングを実施した。
- ・行事の日には、季節を感じられる献立や、お膳には行事にまつわる内容を記したカードを乗せて提供した。提供したカードを居室に飾る利用者もあり、好評だった。
- ・少人数での手作りおやつ会を通じて利用者同士の親睦を深める事ができた。

#### (3) アクティビティケアへの職員の意識向上を図る

- ・職員の意識向上の為、委員会内での研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施する事ができなかった。

#### (4) 新型コロナ感染予防を施した新しい形のイベントやレクリエーションを考察する。

- ・新型コロナウイルス感染症のため、中止になった行事もあったが、感染予防を施し、前年度は実施できなかったドライブ企画など新しいイベントを実施できた。外出機会が持てない中での実施という事もあり、利用者からは「また行きたい。」などの声も聞かれ好評であった。

## 2. 2022年度 統計

### 【フロア行事（特養・短期入所）】

#### （1）フロア行事（特養・短期）

（人）

実施日	内容	参加者	
		特養利用者	短期利用者
5月 1日（日）	端午の節句	157	15
5月 3日（火）～5日（木）	菖蒲湯	155	24
5月 8日（日）	母の日	152	18
6月19日（日）	父の日	173	21
7月 3日（日）	七夕	163	12
8月28日（日）	夏祭り	177	中止
9月18日（日）	敬老祭	153	17
11月 2日（水）～ 4日（金）	文化祭（作品集の回覧）	205	
12月21日（水）～24日（土）	柚子湯	176	10
12月25日（日）	クリスマス会・年忘れ会	177	18
1月 8日（日）	新年会	116	中止
2月 5日（日）	節分	169	19
3月 5日（日）	雛祭り（*）	50	21
3月～4月	お花見（*）	4	—

\*新型コロナウイルス感染症の影響により中止したフロアあり

#### （2）フロア活動（特養・短期）

日 程	内 容
4月～5月	園庭ガーデニング

#### （3）フロア活動（特養）

日 程	内 容
2月26日（日）	手作りおやつ会（焼きそば）
2月26日（日）	ドライブ

## 【安全衛生委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 安全衛生活動の充実を図り、労働災害の防止に努める

- コロナ禍のため、産業医との園内巡回は実施しなかった。危険箇所については継続して掲示物による注意喚起を行った。
- 長時間の時間外労働を行っている職員数等を、毎月の運営会議や当委員会にて共有し、健康管理の啓発に努めた。新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した際は、関係する部署の時間外労働が多く発生したが、園全体としては、昨年度より月平均で100時間程減少した。また、月30時間を超える職員がいない月が増え、改善が見られた。
- 休職中の職員に対しては、定期的に産業医との面談を実施した。職場復帰支援プログラムを参考にしながら進めた。

#### (2) 健康の保持増進

- 全体職員健診では、産業医から受診を推奨された対象者のうち5割以上が受診し、精査や手術を含む治療に繋がった。夜勤従事者健診でも特定保健指導を活用し、受けている。また、産業医による健康診断の結果から、検査項目に繋がった「生活改善ポイント」を提示し、全体に周知した。
- 腰痛問診票結果では、全体職員検診や夜勤従事者健診で、ともに治療中の職員が昨年度より15%増加しており、長期ではないが休養した職員が数名いた。
- 健康増進として、「肩こり解消ストレッチ」を年4回シリーズで発信、また、オンラインレッスン可能な「スポーツクラブ」の紹介、健康づくりオンライン講座「パソコン作業の疲れ改善エクササイズ」を委員会内で受講した。
- メンタルヘルスの面では、「心の免疫を高めるワークショップ」の紹介や、セルフケアスキル向上支援として「こころの健康10か条」を毎月メールレターで発信した。

#### (3) 安全衛生に関する教育

- 「感染症と対策について（新型コロナウイルス感染症予防対策）」の研修を園全体に向けて実施した。ガウンテクニックや感染対策については、行政からの指導内容を、必要と思われる部署へ発信し、周知に努めた。
- 救急処置として、一次救命処置研修は新人職員と中途採用者を対象に実施した。
- 医師による健康教育や腰痛予防の研修は実施できなかったが、他の委員会にて、食事、栄養面の勉強会や移乗の研修を行った。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 労働災害

	内 容	人 数	原 因
労働災害	小指噛創	1	不穩状態の方の転倒予防のケア時
	右上腕骨折	1	電話コードに躓き転倒
	左膝打撲	1	移乗時ベッドフレームに圧迫
	針刺し	1	急いでいた為誤って刺した
	腰痛	2	ベッドを高さ調整せず移乗した
			腰に負担のかかる介助をした
	手首熱傷	1	作業の順序を間違えた
	足趾打撲	1	作業の確認不足
	前胸部・肩打撲	1	シューズのグリップが強く躓いた
	足首打撲	1	雨の屋外作業で滑った
	大腿打撲	1	開けた引き出しの閉め忘れ
過労	1	疲労がたまっていた。	
通勤災害	腰部圧迫骨折	1	帰宅中に自転車で転倒
合 計		13	



## 【研修】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) キャリアパスに連動した階層別研修の整備

- 教育トレーナーを中心として新任研修を実施、研修後はOJT教育を実施した。現任者に対しては、法人本部が開催した全体研修に参加することができたが、拠点としては人員不足や感染症発生等の影響により研修の整備までには至らなかった。また、キャリアパスに連動した研修の整備には至っていない。

#### (2) 資格取得支援の促進

- 介護福祉士国家資格については、「東京都現任介護職員国家資格取得支援事業」を活用し、6名に対して実務者研修受講料等の支援を行った。
- 無資格者に対する「認知症研修」については、来年度の実施とした。

#### (3) 多様な担い手に対応した職員育成の仕組みの整備

- 年間を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受けたため、計画通りに進めることができなかった。
- 外国人介護職の採用について、佐賀県から来年度の入職に繋がったことを受け、今後は研修を含め、学校との連携を深めていくこととした。

#### (4) 各種研修・育成計画の充実

- 管理職、事業所管理者を対象として、法人本部が主催する「個人情報保護、ハラスメント防止、権利擁護」等、法令遵守の動画配信研修に参加。また、年度の後半は管理職研修に参加した。園としては、運営基準に関する研修、加算に対応した研修、実務に即した介護技術の研修を実施した。

#### (5) 外国人介護職員の受け入れに関する検討

- 外国人の採用に伴い、在留資格等に関連する専門的な書類手続きが増えたため、外部支援機関と契約する事で、時間と労力の効率化を進めた。今年度、介護職1名の入職があり、外国人採用は増えてきている。現場の状況を踏まえて今後も採用の検討を進める。

## 2. 2022年度 実績

### (1) 拠点共通研修

研修項目	開催時期	研修内容等	講師等	実施回数
新任職員研修	4月	(新卒者) 芙蓉会の事業概要と職員としての心得等	園長 各課担当者	1回
新任職員研修	随時	(中途採用者) 芙蓉会の事業概要と職員としての心得等	介護課トレーナー	—

### (2) 拠点課題別研修(委員会)

研修項目	開催時期	研修内容	講師等	実施回数
感染症予防	4月、2月	新型コロナ対策、血液感染症	衛生管理委員会	2回
	5月、3月	新型コロナ対策	感染症対策委員会	2回
リスクマネジメント	4月、2月	事故予防、薬剤と誤薬	リスクマネジメント委員会	2回
身体拘束廃止	4月、2月	身体拘束廃止		2回
看取りケア	8月、2月	看取りケアについて	ケアプラン委員会	2回
高齢者虐待防止	12月	高齢者虐待防止と権利擁護	高齢者虐待防止委員会	1回

### (3) 施設外研修参加状況

部署等	研修・講座数	参加者(延べ人数)
管理監督職	3	3
総務課	5	5
福祉課	4	4
介護課(介護職員)	6	6
リハビリ課	4	4
栄養課	0	0
医務課	0	0
在宅課(一般・認知デイサービス等)	3	3
在宅課(居宅介護・ヘルパー等)	5	5
南第1高齢者支援センター	28	28
計	58	58

## 【苦情対応関係】

### 1. 2022年度 総括

「社会福祉法人芙蓉会苦情対応規程」に基づき、苦情受付担当者を設置し、苦情をいただいた際は、迅速かつ円滑な解決に努める事ができるよう体制を整えた。

今年度、苦情に関して第三者委員や市へ報告を上げる事例は無かった。日々の利用者及び家族から寄せられる各種相談（要望、希望、期待）については、各窓口担当において誠意をもって対応した。

今後も、サービスの質の向上を図りながら、各相談については受け手側の立場に立って考えることを徹底し、利用者及び家族、地域の方々から信頼される施設となるよう取り組んでいく。

## 【2022年度 芙蓉園 会議一覧】

会議・委員会名	開催日	運営責任者	所掌事項	構成員
芙蓉園運営会議	月1回 第4火曜 14:00~16:00	園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芙蓉園の事業運営に関する協議、決定</li> <li>・事業目標に関する進捗管理（中期計画及び月次事業実績等）及び目標達成に向けた協議、決定</li> <li>・予算、実績等に関する協議</li> <li>・地域連携に関する報告及び協議</li> <li>・加算項目等に関する確認</li> <li>・未収事務に関する報告及び確認</li> <li>・防災管理業務の適正な運営に関する検討</li> <li>・教育・採用に関する協議</li> </ul>	園長、副園長、各課長、各管理者
部門別進捗会議	月1回 各部門別に設定	副園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部門における事業計画に関する進捗管理</li> <li>・各部門における事業運営に関する協議</li> </ul>	副園長、各課長、各管理者、 各課長・各管理者が指名する者
事故発生防止委員会	適宜	園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重大事故発生時の対応策の協議、決定</li> <li>・施設全体のリスクマネジメントに関する対策の検討</li> </ul>	理事長、園長、副園長、 各課長、各管理者
リスクマネジメント委員会	月1回 第4木曜 16:30~17:30	介護課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故対策に関する検討</li> <li>・ヒヤリはっつと、事故報告の分析、改善策、マニュアルの検討</li> <li>・ヒヤリはっつと、事故防止に関する教育・研修に関する検討</li> <li>・身体拘束廃止に向けた取り組みの検討</li> <li>・利用者の身体拘束解除等に関する検討</li> <li>・拘束解除後のリスクマネジメントに関する検討</li> </ul>	各課長・各管理者が指名する者
高齢者虐待防止委員会	月1回 第1木曜 16:30~17:30	園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待防止に関する検討</li> <li>・高齢者虐待防止に関するマニュアルの検討</li> <li>・高齢者虐待防止に関する教育・研修に関する検討</li> <li>・高齢者虐待防止に速やかに対応するための訓練の検討</li> <li>・各事業所の運営規程の整備</li> </ul>	園長、副園長、 各課長、各管理者

## 【2022年度 芙蓉園 会議一覧】

会議・委員会名	開催日	運営責任者	所掌事項	構成員
防災対策検討委員会	月1回 第4金曜 16:30~17:30	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>BCP（事業継続計画）の作成及び運用に関する検討</li> <li>防火管理業務の適正な運営に関する検討</li> <li>風水害や地震等対策に関する検討</li> <li>各事業所の運営規程の整備</li> </ul>	総務課長、各課長・各管理者が 指名する者
感染症対策委員会 (新型コロナウイルス感染症特化)	月1回 第3月曜 16:30~17:30	医務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>BCP（事業継続計画）の作成及び運用に関する検討</li> <li>感染症予防及び対策に関する研修の検討</li> <li>感染症の発生に速やかに対応するための訓練の検討</li> <li>各事業所の運営規程の整備</li> </ul>	園長、副園長、 各課長、各管理者
衛生管理委員会	月1回 第2木曜 16:30~17:30	医務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症及び食中毒の予防、まん延防止に関する対策の検討</li> <li>感染症及び食中毒の予防、まん延防止に関する教育、研修の検討</li> <li>マニュアルの作成及び園内への周知徹底</li> </ul>	各課長・各管理者が指名する者
(医療的ケア安全対策委員会)	年3回		<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアの実施に関する検討</li> <li>医療的ケアに関する教育、研修の検討</li> <li>実施状況に関する管理</li> <li>マニュアルの策定及び園内周知</li> </ul>	園長、配置医、医務課長、 医務課長・福祉課長・介護課長・ 栄養課長が指名する者
褥瘡防止委員会 (排泄班)	月1回 第3木曜 16:30~17:30	介護課	<ul style="list-style-type: none"> <li>褥瘡予防の排泄面に関する運営方針及び運用に関する検討</li> <li>福祉用具活用に関する検討</li> <li>スキンケアに関する対策の検討</li> <li>スキンケアに関する教育、研修の検討</li> <li>身体機能に即した排泄ケアの検討</li> <li>身体機能に即した排泄ケアの教育・研修の検討</li> <li>褥瘡保有利用者の把握と改善</li> <li>マニュアル策定及び園内周知</li> </ul>	各課長が指名する者

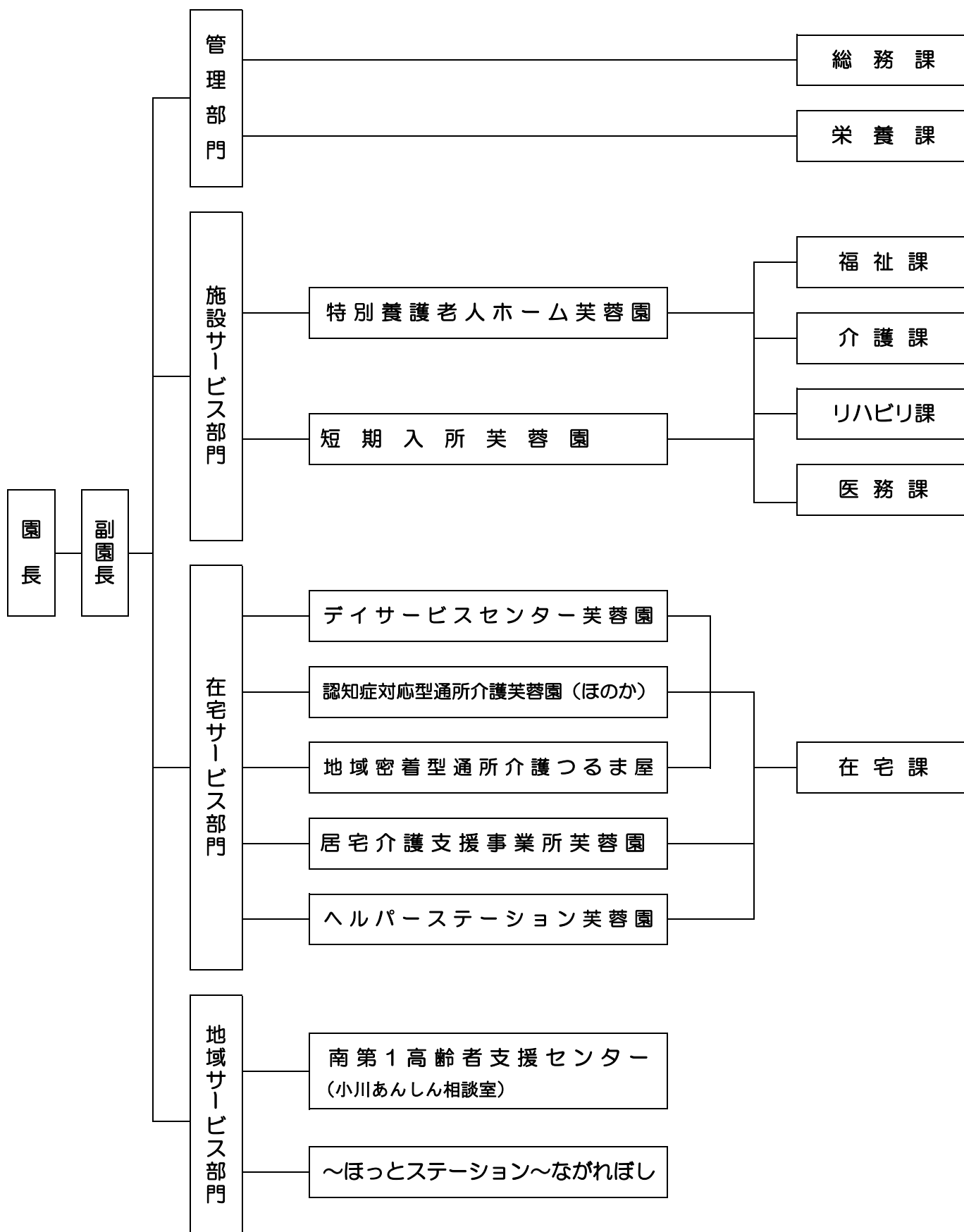
## 【2022年度 芙蓉園 会議一覧】

会議・委員会名	開催日	運営責任者	所 掌 事 項	構 成 員
褥瘡防止委員会 (ポジションニング班)	月1回 第3金曜 16:30~17:30	リハビリ課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡予防のポジションニングに関する運営方針及び運用に関する検討</li> <li>・福祉用具活用に関する検討</li> <li>・残存機能の活用・評価に関する教育、研修の検討</li> <li>・褥瘡防止に関するポジションニングの教育・研修の検討</li> <li>・褥瘡保有利用者の把握と改善</li> <li>・マニュアル策定及び園内周知</li> </ul>	各課長が指名する者
褥瘡防止委員会 (栄養班)	月1回 第3火曜 16:30~17:30	医務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡予防の栄養面に関する運営方針及び運用に関する検討</li> <li>・経口摂取の意義に関する検討</li> <li>・嚥下機能の維持、食思促進に関する検討</li> <li>・経口摂取に関する教育、研修の検討</li> <li>・口腔ケアに関する検討</li> <li>・低栄養や褥瘡保有利用者の把握と改善</li> <li>・食事内容及び食事環境に関する検討</li> <li>・マニュアル策定及び園内周知</li> </ul>	各課長が指名する者
ケアプラン委員会	月1回 第1金曜 16:30~17:30	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時から看取りケアに向けた日々のケアに関する検討</li> <li>・看取りケアプランの進捗確認及び管理</li> <li>・アセスメント力向上に向けた取り組みの検討、推進</li> <li>・施設ケアプラン等に関する検討</li> <li>・施設ケアプランや加算項目等についての教育・研修の検討</li> <li>・マニュアル策定及び園内周知</li> </ul>	各課長が指名する者
イベント委員会	月1回 第2火曜 16:30~17:30	介護課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者ニーズに即した参加しやすいイベントの検討</li> <li>・地域との関わりに関する検討</li> <li>・アクティビティケアに関する検討</li> <li>・年間行事計画に関する検討</li> </ul>	各課長が指名する者

## 【2022年度 芙蓉園 会議一覧】

会議・委員会名	開催日	運営責任者	所掌事項	構成員
安全衛生委員会	月1回 第3火曜 13:00~14:00	医務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者及び職員の健康診断、保健衛生管理に関する検討</li> <li>• 職員の作業条件や環境改善、及び設備の安全管理に関する検討</li> <li>• 職員のメンタルヘルスに関する検討</li> </ul>	園長、産業医、衛生管理者、 医務課長、各課長・各管理者が 指名する者
実習担当者会議	月1回 第2金曜 16:30~17:30	介護課	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実習生の受入れ検討と調整</li> <li>• 実習生の指導教育</li> <li>• 実習に関する学校との窓口業務</li> <li>• 実習に関する施設内の体制整備</li> </ul>	各課長が指名する者
入所調整会議	月1回 最終木曜 13:30~14:30	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 待機者、緊急ケースの審議と決定に関する検討</li> <li>• その他必要な事項に関する協議、決定</li> </ul>	園長、副園長、福祉課長、 介護課長、医務課長、リハビリ課 生活相談員、介護支援専門員、 地域関係者

# 【 芙蓉園 組織図 】





### Ⅲ. 上総園



介護保険施設・事業指定に係る事項

事業所施設の名称	利用者定員	基準配置人員	営業日 営業時間	通常の事業 実施地域
特別養護老人ホーム上総園 (従来型多床室)	定員 60人	施設長 1 生活相談員 3 介護支援専門員 3 機能訓練指導員 2.1 看護・介護職員 70 管理栄養士 1	—	—
特別養護老人ホーム上総園 (ユニット型個室)	定員 150人		—	—
居宅サービス事業所上総園 短期入所事業 (併設型・ユニット型・空床型)	定員 10人	管理者 1 生活相談員 1 介護支援専門員 1 機能訓練指導員 1 看護・介護職員 4 管理栄養士 1	—	—
居宅サービス事業所上総園 通所介護事業 上総デイサービスセンター	定員 25人	管理者 1 生活相談員 1 介護職員 3 看護職員 1 機能訓練指導員 1	月曜日から土曜日、但し国民の 祝日及び12月30、31日、 1月2日、3日を除く、8時3 0分から17時まで。サービス 提供時間は9時30分から1 5時30分まで。	上総地区 小櫃地区
居宅介護支援事業所上総園	—	管理者 1 主任介護支援専門員 3	月曜日から土曜日、但し国民の 祝日及び12月30、31日、 1月2日、3日を除く、9時か ら17時30分まで。 ※上記以外の時間帯は電話に て対応。	君津市全域 木更津市の 一部地域 袖ヶ浦市の 一部地域

事業所施設の名称	利用者定員	基準配置人員	営業日 営業時間	通常の事業 実施地域
君津市東部地域包括 支援センター	—	保健師 1 (または準ずる者) 社会福祉士 2 主任介護支援専門員 1 事務員 1	月曜日から土曜日、ただし日曜 日、祝日及び12月29日から 1月3日までを除く、8時30 分から17時まで。	上総地区 小櫃地区
上総園ふれあい デイサービスセンター (通所介護事業)	定員 34人	管理者 1 生活相談員 1 介護職員 6 看護職員 1 機能訓練指導員 1	月曜日から土曜日、但し12月 29日から1月3日までと、君 津市が定めた日を除く、8時3 0分から17時30分まで。 サービス提供時間は9時15 分から16時30分まで。	君津市全域 木更津市の 一部地域 富津市の 一部地域
上総園ふれあい デイサービスセンター (君津市障害福祉サービス・基準 該当生活介護)	定員 10人		月曜日から土曜日、但し12月 29日から1月3日までと、君 津市が定めた日を除く、8時3 0分から17時30分まで。 サービス提供時間は10時か ら16時まで。	君津市全域 木更津市の 一部地域 富津市の 一部地域

介護給付算定に係る体制等の状況（介護給付請求の基礎となる施設・人員等の区分）

事業区分：指定事業所 地域区分：7級地（3%）

指定事業所番号・名称	1273000123 特別養護老人ホーム 上総園 1273001014 特別養護老人ホーム 上総園（ユニット型） 1273000115 居宅サービス事業所 上総園 1273000024 居宅介護支援事業所 上総園	
提供サービス	施設等の区分	その他該当する体制等
介護老人福祉施設	介護福祉施設 従来型 ユニット型	個別機能訓練加算（Ⅱ） 日常生活継続支援加算（Ⅱ） または、サービス提供体制強化加算（Ⅱ） 看護体制加算（Ⅰ）（Ⅱ） 夜勤職員配置加算（Ⅳ） 精神科医師療養指導加算 褥瘡マネジメント加算（Ⅰ） または、褥瘡マネジメント加算（Ⅱ） 科学的介護推進体制（Ⅰ） または、科学的介護推進体制（Ⅱ） ADL維持等加算（Ⅰ） または、ADL維持等加算（Ⅱ） 初期加算 安全対策体制加算 介護職員処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員等ベースアップ等支援加算
短期入所生活介護 （予防）	併設型 ユニット型 空床型	機能訓練体制加算 個別機能訓練加算 サービス提供体制強化加算（Ⅰ）または（Ⅱ） 夜勤職員配置加算（Ⅳ） 送迎加算 緊急短期入所受入れ加算 介護職員処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員等ベースアップ等支援加算
通所介護 （予防・総合事業）	通常規模	入浴介助加算（Ⅰ） 個別機能訓練加算（Ⅰ）イ サービス提供体制強化加算（Ⅱ） 介護職員処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員等ベースアップ等支援加算

提供サービス	施設等の区分	その他該当する体制等
居宅介護支援	—	特定事業所加算（Ⅲ）

事業区分：指定事業所 地域区分：7級地（3%）

指定事業所番号・名称	1273001394 上総園ふれあいデイサービスセンター	
提供サービス	施設等の区分	その他該当する体制等
通所介護 （予防・総合事業）	通常規模	入浴介助体制 サービス提供体制強化加算（Ⅱ） 中重度者ケア体制加算 運動器機能向上加算 介護職員処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ） 介護職員等ベースアップ等支援加算

事業区分：基準該当事業所 地域区分：7級地（3%）

指定事業所番号・名称	12411200054 上総園ふれあいデイサービスセンター	
提供サービス	施設等の区分	その他該当する体制等
生活介護（身障）	—	—

事業区分：君津市委託事業

指定事業所番号・名称	1203000029 君津市東部地域包括支援センター	
提供サービス	施設等の区分	その他該当する体制等
包括的支援事業 指定介護予防支援事業	—	—

## Ⅲ. 上総園

### 【特別養護老人ホーム】(定員210人)

#### 1. 2022年度 取り組み実績

##### (1) 科学的根拠に基づいたケアを実践することで、サービスの質の向上を図る

- 科学的介護情報システム(LIFE)を活用したケアの実践を目指し、令和4年5月からADLや健康状態、栄養・口腔等の状況についての情報収集、データ蓄積を行った。入所者へのエビデンスに基づいたケアの実践を目指し、LIFEに関連する加算の算定を目指したが、施設内における新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」)のクラスター対応等を優先し、導入に向けた十分な検討を行うことができなかった。令和5年6月以降の算定を目指し、データ収集や検討会等の取り組みを継続する。
- 介護過程の導入、実践を目指し、「介護過程プロジェクト会議」を立ち上げたが、令和4年7月から新型コロナのクラスター対応が始まったことで、夏以降は開催することができなかった。来年度以降も介護過程の導入、実践に向けての取り組みを継続することとする。

##### (2) リスク管理を徹底することで、安定した事業継続を図る

- 防災管理委員会、感染症防止委員会等を中心とし、自然災害対応、感染症対応の研修等を行った。
- 新型コロナ対策を目的としたBCPを作成し、全職員に周知した。
- 風水害、地震等の自然災害への対策を目的とした既存のBCPについて、改めて周知と見直しを図った。
- 高齢者虐待の防止を図るため、指針を作成し、全職員への周知を行った。また、高齢者虐待の防止を目的とした園内研修を令和4年5月と9月に実施した他、新規及び中途採用職員への入職時研修を行うことで、職員への意識付けを図った。
- リスク管理及び生産性の向上を目的とし、31台のセンサーベッド追加導入を行った。

##### (3) 入所者の健康増進と余暇時間の充実に努め、QOLの向上を図る

- 協力病院医師、看護師等の協力を得ながら、接種希望のあった全ての入所者及び職員に対し、新型コロナ及び季節性インフルエンザワクチンの予防接種を行った。職員への接種に際しては、職員の負担軽減と接種率の向上を図るため、職域接種を実施した。
- 新型コロナのクラスターが複数回発生したことで、多くの行事やイベント、職員の集合研修、多職種カンファレンス等が中止、縮小、書面開催等となった。
- 入所者のQOL低下を防止するため、これまで実施してきた複数の行事活動について、フロア単位、ユニット単位で実施可能な小規模なイベント内容に変更したり、密にならないよう時間差を設けたりしながら、活動を継続した。

#### (4) 目標利用率を達成することで、安定した経営基盤を確保する

- 今年度の空床ショートステイを含めた実績利用率は92.0%であり、目標の96.5%に対し未達成となった。
- 未達成となった主な要因としては、施設内における新型コロナのクラスター対応等により、新入所者の受入れが延期または中止となったケースが相次いだことや、近隣医療機関等でのクラスター発生により、入所予定日が延期となるケース等が相次いだことが考えられる。
- 特養の空床に対しては、居宅支援事業所や家族等との情報共有を緊密に行い、空床ショートステイの利用を促進した。延べ1,296名（月平均108名）の利用があり、利用率の引き上げに貢献することができた。
- 年2回（5月／10月）の入所待機者への意向確認、状況把握を行うことで、入所希望者の緊急性の把握と優先順位等の見直しを行った。
- ホームページを活用した施設の魅力発信については、行事活動の中止や縮小等があったこと、クラスター対応関連の報告が多かったことで、不十分な結果となった。来年度以降、ホームページの運用方法、更新頻度等の見直しを図り、アクティブで閲覧者の興味を引けるようなホームページになるよう検討していきたい。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	96.5%	96.5%	96.5%
実績利用率	92.0%	93.3%	95.0%

### (2) 月別利用率実績（定員210人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
目標利用率 (%)	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	96.5
実績利用率 (%)	85.6	89.6	91.5	92.2	90.7	89.1	90.4	89.2	90.8	90.9	92.5	91.0	90.3
平均利用者数 (名)	179.7	188.1	192.1	193.7	190.5	187.2	189.8	187.4	190.8	191.0	194.2	191.2	189.6
実績利用率 (%) 〔空床利用含む〕	86.5	92.2	93.8	93.6	92.2	90.7	91.8	90.3	91.8	92.7	94.4	93.7	92.0
平均利用者数 (名) 〔空床利用含む〕	181.7	193.6	196.9	196.6	193.7	190.5	192.8	189.6	192.8	194.7	198.3	196.8	193.2

### (3) 入退所状況

#### 1) 入所前生活場所

	在宅	介護保険施設	医療機関	介護保険施設 以外の施設等	合計
男性	1	5	12	4	22
女性	29	5	15	1	50
合計	30	10	27	5	72

#### 2) 退所理由

	ご逝去		長期入院	他施設入所		在宅復帰	合計
	上総園	医療機関内		介護保険施設	その他の施設		
男性	6	3	4	0	0	0	13
女性	22	9	18	0	0	0	49
合計	28	12	22	0	0	0	62



## 【短期入所事業所上総園】（定員10人）

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### （1）災害や虐待等、緊急時の地域におけるセーフティネットとしての役割を強化する

- 今年度は大きな自然災害が発生せず、緊急で受け入れが必要な事例はなかった。
- いつ発生するかわからない自然災害について、平時から受け入れ体制を整え、上総園で定めた消防計画等に基づき、定期的な防災訓練やシミュレーションを継続した。
- 君津四市高齢者福祉施設連絡協議会が運営する緊急ショートステイ受入れ事業においては、1名の受入れを行った。受入れに際しては、利用ニーズと感染症対策の両立を心がけ、受入れ前の体調確認、医療機関等におけるPCR検査や抗原検査等を促進するなど、新型コロナウイルスの予防対策を行った。

#### （2）サービス提供時の健康管理、感染症防止対策を徹底し、利用者の健康増進に努める

- 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止、クラスターの回避を最優先課題とした。昨年度末にショートステイを提供するフロアでクラスターが発生したことを教訓に、利用指針を改め、利用者及び家族に対し、自宅及び利用中の健康管理の徹底、発熱等があった際に利用を控えていただく等の協力を仰いだ。

また、利用中に発熱や風邪症状等の体調不良がみられた場合は、利用予定を短縮して帰宅をお願いすることとし、今年度は21名に及んだ。

これらの取り組みについて、利用者家族の理解と協力を十分に得ることができた。その結果、ショートステイ専用ユニット内で新型コロナ陽性者は発生することなく、年度内を通してサービス提供を継続することが出来た。

一方で、感染症対策に対する国、自治体における通知や行政指導、社会情勢が変化中、本人の容態の悪化および同居家族にコロナ陽性者（濃厚接触者）が発生したケースにおいて、利用継続可否の判断及び自宅に送る場合の家族等との連絡調整、時間帯、職員体制（防護服の着用・私物管理）等において混乱が生じた。同居家族への丁寧な説明と同意を得ること、20時以降の帰宅は避けること、帰宅時の家族の心情に配慮すること等について職員間で共有し、サービス向上に努めた。

- 空床ショートステイについては、感染予防の観点から受け入れユニットをB館2階1丁目のみとし、ショートステイ利用者に携わる職員を限定するための取り組みを行った。

#### （3）利用者のニーズを丁寧に汲み取り、個々のニーズにあった適切なサービスを提供する

- 個々の身体機能の評価については、個別機能訓練加算を算定し、機能訓練計画の作成と訓練を提供していたが、担当職員の退職により、令和5年1月から機能訓練体制加算のみの算定となった。利用者のQOLを低下させないよう、作業療法士を中心に小集団での作業療法兼ねた活動を実施し、園内に展示する季節の作品コーナーを彩る手芸作品を制作した。
- ICTについては、離床センサー付きベッドを導入し、歩行不安定者や初回利用者等の転倒リスクが高い利用者の危険予知、行動把握等を行った。この結果、ショートステイ専用ユニット内での介護事故の発生を0件に抑えることができた。

#### (4) 目標利用率を達成することで、安定した経営基盤を確保する

- 新型コロナウイルスの感染予防対策としてショートステイの受入れ指針を厳格化し、利用前及び利用中の体調不良者に利用を控えていただく対応を行った事で、年度内を通し、ショートステイ事業は休止せずサービス提供をすることが出来た。

一方で、近隣市町村やサービス提供地域内における新型コロナウイルスの流行に伴い、利用を自粛する利用者も多く、利用目標を達成することができなかった。

来年度以降、新型コロナウイルス感染症対策の一部緩和を見込み、サービス提供実施地域の動静等を把握しながら利用率の回復を目指したい。特に、新規登録者を確保する事で利用の裾野を広げ、利用キャンセルがあった際の代替利用を促すことができるような体制づくりを目指したい。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	93.0%	93.0%	93.0%
実績利用率	78.8%	79.5%	85.5%

### (2) 月別利用率実績（定員10人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
目標利用率 (%)	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%
実績利用率 (%)	73.0%	64.2%	72.3%	68.7%	75.8%	77.3%	84.5%	80.3%	81.0%	86.5%	91.1%	90.6%	78.8%
平均利用者数 (名)	7.3	6.4	7.2	6.9	7.6	7.7	8.5	8.0	8.1	8.6	9.1	9.1	7.9

## 【上総デイサービスセンター】(定員25人)

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 感染症予防の徹底

- ・今年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、デイサービスにおいても年間で4件の陽性が確認され、保健所の指示のもと予防対応し、安心できるサービス提供に努めた。
- ・利用時の健康管理として、平時の体温測定、濃厚接触者及び37.0°以上の発熱や風邪症状がみられた際は、利用を控える・マスクの利用を促すとした文書を配布し、理解と協力を求められるよう取り組みを行った。

#### (2) 活動を充実させ、個別ケアの強化を図る

- ・イベント関連では昨年同様、感染拡大防止の観点から規模を縮小し、少人数制で感染予防対策を行いながら実施する形となった。
- ・創作活動では、利用者共同での作業や個別創作など、個々の状態に合わせた作業内容を提供することで、質と創作意欲を向上させることができた。また、出来上がった作品を専門雑誌に投稿し、掲載されたことでモチベーションのアップに繋がった。

#### (3) 定期的な研修を行い、職員の技術向上に努める

- ・内部研修では職員から食事介助や入浴介助など、身体介護に関する要望がきかれたため、定期的な研修として取り入れることで意識・技術向上に努めた。また、看護師による感染症対策の基本や、救急時の対応方法についての勉強会を行った。

#### (4) 目標利用率を達成する

- ・今年度は34名の利用中止者がみられ、42名の新規利用者の受け入れを行った。今年度は年間で4件の新型コロナウイルス陽性が確認され、デイサービスセンター内での集団感染には至らなかったものの一定期間利用を控えるなど、利用率低下の要因ともなった。
- ・来年度においても目標稼働率を85%として、上総園ホームページ、デイサービス通信を活用し、施設の魅力や活動内容の積極的な情報発信を図るとともに、新規受け入れや臨時利用に対して柔軟に対応し、安定した利用率を目指していくこととする。

### 2. 2022年度 統計

#### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	85.0%	85.0%	85.0%
実績利用率	81.4%	78.7%	83.4%

(2) 月別利用率実績 (定員25人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数 (日)	20	19	22	20	22	20	20	20	21	19	19	22	20.3
目標利用率 (%)	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
実績利用率 (%)	72.6	80.0	83.8	80.4	75.8	91.2	83.6	85.6	86.9	85.9	80.6	71.3	81.4
平均利用者数 (人)	18.5	20.0	20.9	20.1	18.9	22.8	20.9	21.4	21.7	21.4	20.1	17.8	20.3

## 【居宅介護支援事業所上総園】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 住み慣れた地域での生活が継続できるよう、質の高いケアマネジメントを実践する

- 利用者が住み慣れた地域で安心して生活を続けていけるよう、サービス事業所や医療機関等と積極的に連携を図った。
- 対応が困難な事例については、職員間で検討、意見交換を行い、必要に応じて君津市東部地域包括支援センターや関係機関等に相談し、質の高いケアマネジメントの実践と利用者やその家族のQOLの向上を目指した。
- 職員個々の資質の向上のため、君津市介護支援専門員協議会や君津市東部地域包括支援センター及び市内のケアマネ事業所と共同で企画した研修会、その他各職能団体が開催した研修会にも積極的に参加し、その職員が他の職員に研修の内容等について報告して情報の共有に努めた。
- 来年度以降もICTやケアプランデータ連携システムの導入、活用に向けて取り組んでいく。

#### (2) 感染症や災害等のリスクに対応し、事業継続ができる体制づくりに取り組む

- コロナウイルス感染症については感染対策を徹底し、原則、利用者宅に訪問してモニタリングを実施し、適切に利用者やその家族の状態把握に心がけた。
- 事業所内においてコロナウイルスに感染した職員並びに家族が感染した職員がみられたが、他の職員及び利用者に感染が広がることなく、事業を継続することができた。
- 各職能団体が開催するBCP策定に関する研修会に参加する機会を持つことができた。来年度は感染症や自然災害が発生した場合であっても、適切なケアマネジメントが安定的、継続的に実践できるようにBCPの策定に努める。

#### (3) 地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを実践する

- 地域包括ケアシステムの構築に向け、社会福祉法人の公益性、役割について理解し、君津市東部地域包括支援センターや地域住民からの直接の相談、関係機関等からの相談についても積極的に対応し、利用者が要介護状態となっても、住み慣れた地域での生活が継続していけるように自立支援に向けたケアマネジメントに努めた。
- 日々のケアマネジメント業務の中で、地域課題や不足する社会資源等について、把握するように心がけた。コロナ渦の影響で地域ケア会議等の場で情報発信を行う機会はなかったが、引き続き地域のニーズや課題の把握と地域包括支援センターや行政、関係機関、民生委員等との連携を密に図りながら、地域包括ケアシステム構築に向けて、居宅介護支援事業所の介護支援専門員としての役割を果たしていく。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 月別利用率実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
目 標	要介護	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	1,080
	要支援	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
実 績	要介護	102	101	99	101	95	102	96	98	99	94	96	96	1,179
	要支援	15	13	16	17	18	22	22	22	21	20	19	18	223
総 件 数		117	114	115	118	113	124	118	120	120	114	115	114	1,402
介護支援専門員数		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
1人当たりの 担当件数		39.0	38.0	38.3	39.3	37.7	41.3	39.3	40.0	40.0	38.0	38.3	38.0	38.9

# 【上総園ふれあいデイサービスセンター】

## 1. 2022年度 取り組み実績

### (1) 新型コロナウイルス感染症予防に徹し、利用者・職員への感染を防ぐ

- 職員の体温測定、千葉県によるPCR検査及び抗原検査、館内消毒、利用者の体温測定、健康把握等感染予防に努めた。クラスターの発生は無かったが、令和4年8月、12月、令和5年2月に職員の感染者がみられた。
- 利用者については、家族感染からの発症者や濃厚接触者があり、感染予防の難しさを改めて認識した。
- 全国的に感染者数は減少しているが、今後も利用者及び職員への感染を防ぐため感染予防に取り組んでいく。

### (2) 地域住民のニーズを把握し、利用希望に対して円滑にサービス利用に繋げる

- 老人デイサービス、障害デイサービスとも利用希望第1位は「入浴」となっている。特殊浴槽を活用し中重度の要介護高齢者、全介助状態の障害者の入浴に取り組んだ。特に、障害デイサービスにおいては、君津市内で特殊浴槽を保有する障害者施設が無く、入浴の希望が多くみられる。
- また、「リハビリ」希望の利用者も多く、ふれあいデイサービスの長い廊下を利用したの歩行訓練、リハビリ器具を利用したの運動等「リハビリ」にも取り組んでいる。「入浴」「リハビリ」とも介護員、看護師が協働して行った。

### (3) 医療ニーズへの対応

- 老人デイサービスには「在宅酸素」利用者が1名、障害デイサービスには「胃瘻」造設者が3名、「たん吸引」が必要な利用者2名が在籍している。家族、主治医の指示のもと、酸素量チェック、胃瘻時の注入処置など安全利用に努めた。

### (4) 機能訓練・リハビリ機能の強化

- 利用者ニーズも高く、看護職員、介護職員で対応した。ふれあいデイサービスの長い廊下を活用し利用者も歩行訓練に取り組んだ。作業療法面では、利用者全員で「壁面」作成に取り組んだ。その他、折り紙作成での手指活動、クロスワードやナンプレなどの脳トレも行った。

### (5) 老人デイサービス70.0%、障害デイサービス45.0%の目標利用率を達成する。

- 老人デイサービスについては、令和4年12月まで利用率目標を達成していたが、令和5年1月に体調不良による利用中止や入院、施設入所等が重なったことで利用率が低下し、今年度の利用率は68.9%となった。
- 障害デイサービスについては、新規利用者、利用中止者ともになく推移したが、利用者の定期ショートステイや入院もあり、年間利用率は43.7%となった。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

#### 1) 老人デイサービス

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	70.0%	69.5%	78.0%
実績利用率	68.9%	69.7%	71.0%

#### 2) 障害者デイサービス

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	45.0%	45.0%	50.0%
実績利用率	43.7%	42.4%	50.2%

### (2) 月別利用率実績

#### 1) 老人デイサービス (定員34人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数(日)	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	25.7
目標利用率(%)	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
実績利用率(%)	65.2	69.7	71.9	73.2	69.4	70.6	72.4	71.9	69.6	59.8	66.5	66.4	68.9
平均利用者数(人)	22.2	23.7	24.5	24.5	23.6	24.0	24.6	24.5	24.7	20.3	22.6	22.6	23.5

#### 2) 障害者デイサービス (定員10人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数(日)	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	25.7
目標利用率(%)	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0
実績利用率(%)	43.8	45.0	43.1	43.8	43.0	41.9	43.8	45.0	45.8	43.3	44.6	41.5	43.7
平均利用者数(人)	4.4	4.5	4.3	4.4	4.3	4.2	4.4	4.5	4.6	4.3	4.5	4.2	4.4



# 【君津市東部地域包括支援センター】

## 1. 2022年度 取り組み実績

### (1) 総合相談支援事業を通して地域住民との信頼関係を強化する

- ・総合相談は延べ1,774件の対応を行った。そのうち新規相談件数は209件だった。
- ・12月より民生委員が新体制となったため、上総地区・小櫃地区の民生委員会で包括についての説明を改めて行い、リーフレットを配布した。
- ・対応困難ケースについて、ケースに応じて君津市の厚生課や障害福祉課、地域の診療所、ケアマネジャーに声掛けし検討会を行った。

### (2) 虐待・消費者被害等の対応を行い高齢者の権利擁護を推進する

- ・高齢者虐待について3件の通報があり、「君津市高齢者虐待対応マニュアル」をもとに高齢者支援課と連携し対応した。
- ・消費者被害防止の啓発活動として、上総地区・小櫃地区の民生委員に国民生活センターのリーフレットを配布して注意喚起を行った。

### (3) 安定的な指定介護予防支援事業の運営を目指す

- ・1か月あたりの予防プラン（直轄）の平均件数は48.8件で、昨年度より3.8件減少した。これは、今年度より清和地区が当地域包括支援センターの管轄から外れたのが主な理由だと考えられる。

### (4) 地域包括支援センター事業評価の達成率を上げる

- ・7月に地域ケア会議を開催し、認知症のひとり暮らし女性のケースについて、担当ケアマネジャー、民生委員、介護保険事業所の職員と今後の在宅生活について協議を行った。
- ・地域の民生委員に消費者被害防止の啓発活動を行った。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 予防プラン件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
直轄	43	46	48	48	44	50	50	49	51	52	55	52	49
委託	65	56	64	67	67	69	69	70	69	66	63	61	66
合計	108	102	112	115	111	119	119	119	120	118	118	113	115

### (2) 総合相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	207	141	99	158	172	144	158	163	129	97	113	193	1,774

## 【総務課】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 事業継続のため安定した経営基盤の強化

- ・コロナ感染症によるサービス利用控えが顕著であったが、業務や経費を見直すとともに、国や千葉県の補助金制度等を活用し、経営の安定に努めた。
- ・計画通りに、屋上防水工事、厨房機器の更新を実施した。
- ・新型コロナウイルス等の感染拡大防止のため、簡易陰圧装置の設置に要する費用への補助金を申請し設置を行った。
- ・送迎車両が経年劣化の為故障も多く、エアコンの不調もあったため新車両購入の際に共同募金助成事業を活用し購入を行った。
- ・毎月の法人経営会議、事務局会議の中で各施設の経営改善への取り組みを検証し、業務の合理化と省力化の推進をした。

#### (2) 内部管理体制の強化と事務の効率化に向けて

- ・各業務における責任と義務の明確化を行った。
- ・職務分掌や業務マニュアルの整備を行った。
- ・ダブルチェック体制で業務を共有することによってチェックの見落としを防いだ。

#### (3) 福祉・介護人材確保に係る取り組み強化

- ・コロナ禍により、就職フェア等の開催が中止となったが、学校訪問を継続して行った。
- ・常勤採用者2名（介護職）常勤退職者10名であった。昨年度の退職者は8名で2名増加し離職を防ぐには至らなかった。
- ・看護職員の補充の為、人材紹介会社や職安に募集を募ったが、採用に繋がらなかった。

#### (4) 労働環境の維持向上

- ・コロナウイルス感染症の対応が最優先となり、業務改善までの取組を行えなかった。
- ・センサーベッドの導入やマットレス更新を行い、介護業務負担軽減を行った。
- ・新型コロナウイルス感染予防の為、職員の出入り口を別に設け、他フロアの往来を制限したこともあり、職員間のコミュニケーションの減少が見られた。そのため、役職者には職員への声掛けなど相談しやすい環境の構築に努めた。

## 【栄養課】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 新型コロナウイルス等の感染症への予防対策を徹底する

- 1) 昨年度に引き続き、健康観察カードや行動履歴表にて体調の自己管理への意識づけを行った。また、職員本人及び同居家族の体調不良時には迅速な情報共有と衛生管理に努め、献立や調理業務を遂行することで、利用者の安全な食の確保に繋げることができた。
- 2) 手洗い、手指消毒、マスク着用、休憩時の黙食や3密防止、厨房の換気等を心掛けた。
- 3) 次亜塩素酸水、アルコールを用いて、手が触れるドアノブやスイッチなどの消毒を、1日3回実施した。

#### (2) サービスの質の向上を図る

- 1) 上総園における栄養ケア・マネジメント体制に基づき、多職種協働の下、利用者の栄養状態の維持および増進に努めた。  
低栄養状態のリスク分類の割合は、高リスク者が8.6%、中リスク者が31.4%、低リスク者が60.0%と、昨年よりも低栄養状態のリスクが高くなっている傾向がみられた。これは、体調不良者の増加や褥瘡発生者の増加による影響と考えられる。  
一方、体重減少率を見ると、体重が5%以上減少した利用者は26.4%となり、昨年よりも減少傾向にあった。その内訳を多床室と個室で分類し集計すると、個室が21.7%であるのに対し、多床室は38.2%と差が見られた。これは、体調不良者の延べ人数が多床室の方に多かったためと推測される。  
今後も適切なアセスメントを行い、利用者の健康管理に繋げていきたい。
- 2) 季節感のある献立を盛り込んだ満足度の高い食事を提供するとの方針を掲げる中、長期間にわたる感染症対応や度重なる物価高騰があったものの、行事食等の特別な食事を提供する機会は昨年度よりも多く作ることができた。また、デイサービス利用者からの要望に応え、特別な食事を提供できる曜日を増やすことで好評を博した。
- 3) 「手作りおやつ」については、新型コロナウイルスによる感染症に落ち着きが見られず、栄養課職員がフロアに出向く形では実施できなかったが、厨房内で作成したおやつをフロアに提供する形で実施することができた。

#### (3) 2022年度 総括

- 1) 昨年度から引き続きコロナ禍で落ち着かない情勢の中、利用者や職員にも陽性者や濃厚接触者が出現し、年に5回ほどの感染症対策体制を余儀なくされたが、利用者の食事や配食サービスは滞りなく提供することができた。特に行事食等の特別な食事や手作りおやつなどは、昨年度よりも提供する機会が増え、利用者の生活に潤いをもたらすことができた。
- 2) 栄養マネジメントに関しては、医療ニーズの高い利用者など困難事例が増加する傾向に加えて、コロナ禍の影響か体調不良者や褥瘡発生者が増加する傾向が見受けられた。今後も多職種連携を密にとり、質の高いマネジメントを実施していきたい。

## 【地域貢献事業】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 自然災害や虐待対応等、地域におけるセーフティネットとしての役割を担う

- ・君津市及び地域包括支援センター、居宅支援事業所等と連携し、被虐待高齢者の保護、積極的な受入れを行った。
- ・今年度は、養護者からの虐待が強く疑われた高齢者1名の受入れを行った。  
主介護者である夫からの暴力があり、親族の通報で君津市、君津市東部地域包括支援センターが介入し、要介護2であったが、特例入所により当園入所となった事例である。
- ・君津市の福祉避難所としての役割を担い、物品の確保と君津市との情報共有を行った。  
今年度は緊急を要する自然災害が発生せず、福祉避難所は開設されなかった。
- ・近隣四市（君津市、木更津市、富津市、袖ヶ浦市）の高齢者福祉施設協議会が実施する緊急ショートステイ事業に協力し、輪番表に基づき受入れ体制を整えた。当番日には使用する居室を確保して職員へ周知を行ったが、今年度は当番日に受入れの相談がなく、実績は0件となった。

#### (2) 地域の文化・行事活動への参加を推進し、地域貢献と利用者の社会参加を促進する

- ・今年度は新型コロナウイルスの流行により、地域活動の多くが中止となった。例年上総園の入所者が参加していた文化祭行事等も、入所者の手芸作品やOTで作成した作品の出展のみに留まった。

#### (3) 民生委員等、地域活動団体への協力を通し、地域の福祉力向上に寄与する

- ・地区社会福祉協議会が運営する独居高齢者に対する配食サービスへの協力を継続した。民生委員やボランティア団体と協力し、毎週木曜日にお弁当の配布を行った。
- ・新型コロナウイルスの影響で休止となっていた上総地区介護教室について、2年ぶりに開催することができた。10月29日（土）と11月12日（土）の2回に分けて開催し、介護サービスや介護予防、医療看護、栄養、リハビリ等に関する基本的な知識や技術について、専門職による地域住民への講義及び実技指導等を行った。
- ・今年度の下半期以降、徐々に地域活動が再開され、地域包括支援センターの職員を中心に、地区民生委員の定例会や市の在宅医療・介護連携推進協議会等に出席した。また、地区社協等が主催するスマイルサロンに協力し、地域住民との交流、福祉力の向上、ニーズ収集等に努めた。

## 【実習生】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 感染症防止対策を図りながら、福祉人材の育成に貢献する

- ・今年度は社会福祉士現場実習5名、介護福祉士現場実習4名の受入れを行った。
- ・新型コロナウイルスの感染予防対策として、フロア活動や入所者との面談頻度を減らすなどの対応を行った。行事活動等の一部を縮小したものの、概ね計画通りの現場実習を実施することができた。

#### (2) 実習指導者の専門性及び実習指導技術の向上を図る

- ・社会福祉士の実習指導者について、今年度も新たに生活相談員1名が実習指導者講習会の履修を終えた。これにより特養（支援課）に4名、居宅支援事業所に1名、地域包括支援センターに1名、計6名の実習指導体制となった。
- ・介護福祉士の実習指導者については、新たな実習指導者の養成は行っていないものの、特養（介護課）に11名、上総デイサービスセンターに1名、計12名の実習指導体制を維持することができた。

#### (3) 福祉専門職養成校との情報共有を緊密にし、実習指導についての連携強化を図る

- ・新型コロナウイルスの影響により2年続けて中止していた学校訪問について、今年度から一部の養成校において再開することができた。この他、リモートによる学生への就職ガイダンスや、ホームページ等の紹介を行うことで、養成校等との連携を図った。
- ・インターンシップ、高校生ワークキャンプについては、君津市社会福祉協議会等と協議の結果、新型コロナウイルス対応の一環として今年度も中止となった。

### 2. 2022年度 統計

#### (1) 社会福祉士〔相談援助技術現場実習〕

養成校名	期間	受入人数
日本福祉教育専門学校	2022年 5 月 30 日 ~ 2022年 6 月 30 日	1名
淑徳大学	2022年 8 月 5 日 ~ 2022年 8 月 24 日	2名
日本福祉大学	2022年 7 月 1 日 ~ 2022年 8 月 31 日	1名
	2022年 9 月 1 日 ~ 2022年 9 月 30 日	1名

#### (2) 介護福祉士〔介護実習〕

養成校名	期間	受入人数
中央介護福祉専門学校	2022年 5 月 25 日 ~ 2022年 6 月 23 日	2名
〃	2022年 6 月 13 日 ~ 2022年 6 月 16 日	1名
〃	2022年 6 月 20 日 ~ 2022年 6 月 23 日	1名

## 【ボランティア】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 新型コロナウイルス対策を徹底し、ボランティア受入れの再開を目指す

- 書道教室等の趣味活動支援、口笛ボランティア等の演芸ボランティアについて、新型コロナウイルスの影響によりいずれも中止となった。
- 園内で発生した新型コロナウイルスのクラスター対応に追われ、ボランティアの再開に向けた具体的な検討を実施することができなかった。来年度以降の再検討と受入れ再開を目指したい。

#### (2) 職員の技能を活かした園内の職員ボランティア活動を推進する

- 園内で実施したフロア単位の行事活動において、ハンドアロマ等の職員自身の特技を活かしたボランティア活動を継続した。実施にあたっては、感染対策を徹底するとともに、利用者の参集する時間をずらしたり、少人数単位にする等の工夫を行った。
- 実施した活動について、ホームページ及び園内新聞「かずさ」等で広報し、施設の魅力発信に繋げることができた。

# 【リスクマネジメント委員会】

## 1. 2022年度 取り組み実績

### (1) 事故防止に向けた取り組みを行う

- ・上総園における今年度の事故発生件数は27件で、昨年度と比較し11件減少した。事故の多くは転倒・転落が起因したものであり、ユニット型個室での発生が多かった。ヒヤリハット報告は180件であり、発生場所は「居室内」が53.5%で、全体の半数以上を占めた。
- ・事故の分析や再発防止策の検討の為、感染対策を行った上で、リスクマネジメント委員会を開催し、全職員に周知することが出来るよう取り組んだ。また、ヒヤリハット報告書を集計、分析することにより、リスクの高い利用者を把握し、事前の介護事故の低減、リスク分散に努めた。

### (2) 入所者の安全確保に資する物品や環境の整備を図る

- ・事故防止のためや、事故リスクのある利用者の状態把握の為にセンサーベッドや自動ブレーキ付き車椅子を活用した。また、入所者のニーズの高まり、サービスの質の向上、事故防止、リスクマネジメントのためにセンサーベッドを新たに31台追加で導入した。インテリアパズルマットについては身体拘束廃止委員会と連携し身体拘束を行わないケアに取り組んだ。

### (3) 委員会や研修を通し、職員個々のスキルアップを図ることでサービスの質を向上させる

- ・介護事故防止の為、園内研修を行った。今年度はヒヤリハット、事故報告書について研修を行い、職員個々のスキルアップに努めた。施設外研修への参加は新型コロナウイルスの流行の為、多くの研修会が中止、延期され、参加することができなかった。来年度以降、リモート研修などを活用しながら積極的に施設外研修への参加を促進し、新たな技術や知識の習得に取り組んでいくこととする。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 事故報告件数〔特養〕

分類	人数	分類	人数
歩行中の転倒（うち骨折）	6（2）	誤薬・服薬忘れ	9
立ち上がり転倒（うち骨折）	3（3）	徘徊・行方不明	0
車椅子転倒（うち骨折）	0	誤嚥	0
ベッド転落（うち骨折）	0	物品損傷・紛失	1
受傷・打ち付け（うち骨折）	5（3）	利用者間諍い	0
異食	3	合計	27

(2) ヒヤリハット件数〔特養〕

分類	人数	分類	人数
歩行中の転倒	40	誤薬・服薬忘れ	12
立ち上がり転倒	51	徘徊・行方不明	3
車椅子転落	22	誤嚥	0
ベッド転落	44	物品損傷・紛失	0
受傷・打ちつけ	2	利用者間諍い	0
異食	6	合 計	180



## 【身体拘束廃止委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 身体拘束を誘発する原因を探り、除去することで、身体拘束ゼロを目指す

- 昨年度同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面による委員会開催が主であった。各課各フロアの委員と密に連携を取り、身体拘束に繋がらないために行っている取り組みについて情報共有することで、現場での実践や支援方法の見直しなどに活用した。
- 園内研修では実際に入所している利用者を対象に書面による事例検討会を行った。普段介護職員が直面する介護困難な場面において、様々な意見やケア方法が各課各フロアから出され、身体拘束を行わない介護の実現に向けた意識付けとなる機会となった。
- このような活動を通し、今年度の身体拘束の状況については0件であった。

#### (2) 研修参加を促進し、フィードバックすることで、職員のスキル及び意識の向上を図る

- 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面式での研修ではなく、映像視聴と書面による事例検討会を行った。映像視聴では「高齢者福祉における職業倫理」という内容で身体拘束廃止の基礎的な内容から身体拘束がもたらす弊害、抑制死等についての理解を深めた。書面による事例検討会では実際に入所している利用者を対象とし、介護困難な場面における支援方法やアプローチの仕方等、意見交換・情報共有をすることで研修内容を現場にすぐに活かせる内容となった。
- 来年度から少しずつ対面式での園内研修や研修内容の充実を図り、外部研修への参加等も積極的に取り入れながら、職員のケア技術の向上や介護職としての意識の底上げを行っていく。また、スピーチロックと接遇研修を合わせた内容での園内研修の案も出ていたため、来年度の課題とする。
- 身体拘束廃止における基礎的な倫理内容は、介護に携わる人間として最も大切な部分であると考え。その為、定期的に啓蒙活動や研修を行いながら、どうすれば身体拘束を廃止できるか、職員間で日頃のケアの見直しや問題意識を共有していく。

#### (3) やむを得ず身体拘束を行う場合であっても、多職種協働による検討を行い、身体拘束の早期解除を図る

- 今年度中、現在に至るまで当園での身体拘束事案は発生していない。今後も身体拘束ゼロの観点から、「どうすれば身体拘束をせずに、その人らしい生活を送れるか」を考えながら研究と振り返りを重ねていく。やむを得ず身体拘束を行う場合は、「切迫性」「非代替性」「一時性」の三要件を踏まえ、多職種による連携のもと、利用者や家族に説明と同意を得た上で必要最小限なものとして行うこととする。
- 今年度、簡易離床センサーのフローチャートを見直し、更新した。各フロアにおいて簡易離床センサー、もしくはそれに準ずる環境整備を行う場合、フローチャートをもとに行えるようにした。簡易離床センサーは適宜、評価・見直しを行いながら、フロア全体で取り外す取り組みを推進していく。

## 【感染症防止委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 新型コロナウイルス対策を強化し、重点的に取り組む

##### 1) 新型コロナウイルスの感染予防策及び感染拡大防止対策

- 今年度は新型コロナウイルスへの対策を重点課題とし、園内の新型コロナウイルス感染症対策本部と協力し、感染予防及び感染拡大防止に取り組んだ。
- 予防策としては、手指消毒やマスクの使用、適切な換気や不要不急の人混みへの外出を控えるなど、職員への働きかけを行った。
- 新型コロナウイルス発生時の拡大予防策としては、標準予防策（スタンダード・プリコーション）を念頭に、ガウンやN95マスク、フェイスシールド等の使用、また、これらの適切な使用方法について、映像視聴や研修、実践時の指導等を通じて働きかけを行った。

##### 2) 園内における新型コロナウイルス感染症の発症状況

No.	発生フロア	発生日 (届出日) ~ 収束日	罹患者〔人〕	
			入所者(※)	職員
1	A館1階	7月 10日 ~ 8月 4日	7 (0)	5
2	A館1階	8月 18日 ~ 9月 9日	8 (1)	1
3	B館3階	10月 17日 ~ 11月 3日	8 (0)	2
4	B館4階	12月 13日 ~ 12月 31日	5 (0)	3
5	A館1階	1月 28日 ~ 3月 1日	21 (0)	3
6	A館2階	2月 23日 ~ 3月 9日	12 (0)	4
-	令和4年度内の上記以外の発生状況		0 (0)	23
合計			61 (1)	41

※ ( ) は新型コロナウイルス感染症に罹患した入所者の内、死亡者の数。

#### (2) 感染症予防に関する職員の基礎知識の向上を図る

- 委員会として年2回（7月／10月）の園内研修を開催し、感染症に関する基礎知識の習得と感染症予防に対する意識付けを行った。
- 委員会活動を通じ、園内における感染症罹患者の把握、感染症別の対応方法、職員への啓発活動等を行った。

#### (3) 感染症への円滑な対応ができるよう、対応マニュアルを整備する

- 国や自治体が発信する新型コロナウイルスに関する最新情報の更新、対応方法の変更等に合わせ、園内の新型コロナウイルス対策本部と協力し、従来の新型コロナウイルス対応BCP（事業継続計画）の見直しを行った。
- 整備したBCPについて、委員会活動及び園内の会議等を通じ、全職員への周知を行った。

## 【褥瘡防止委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 委員会、研修を通し、褥瘡防止に関する職員の基礎知識向上を図る

- ・年2回の研修では除圧方法をテーマにしたDVD研修や、職員自身が圧分散を体験する事によりその有用性を理解し、褥瘡防止につながるケアの習得を目指した内容の研修を行った。

#### (2) 褥瘡防止を目的とした定期的なリスク評価（OHスケール）を取り入れ、利用者のリスク把握に努める

- ・3か月に1回（8月は園内コロナ対応の為リスク評価できず）、年3回の利用者リスク評価に取り組んだ。把握された評価内容は委員会を通して職員間で情報共有を行い、適切なマットレス選択や褥瘡リスクのある利用者の把握に役立てた。

#### (3) マットレス等各用具の選定及び管理を行うとともに、用具の効果的な活用に努める

- ・マットレスやポジショニングピローに関しては、使用者が変更した際や月末にフロアと連絡をとりあい使用状況を確認・管理を行った。  
また、リスク評価の結果により褥瘡リスクの高い利用者を把握し、優先的に使用することで褥瘡予防や褥瘡発症者への早期対応に繋げた。

### 2. 2022年度 統計

#### (1) 月別発症数（※委員会開催月に合わせて集計）

	4月	6月	8月	10月	12月	2月
I度	5	7	8	7	7	7
II度	12	8	6	11	15	15
III度	2	2	3	5	1	1
IV度	1	3	5	4	4	4

#### (2) 部位別発症数（2023年3月末日現在）

発症部位	I度	II度	III度	IV度	発症部位	I度	II度	III度	IV度
脊柱		1			膝関節部		1		
仙骨	2	7		5	外踝部		1		
腸骨		1			踵部	5	2		1
臀部		5			足趾部	4			2
大転子部	1	1			足底部		1		

## 【防災管理委員会】

### 1. 2022年度取り組み実績

#### (1) 災害時体制の整備

- ・防災委員会を8月、10月、3月と開催した。
- ・上総園緊急連絡網については、電話を使用した通話による伝達からSNSを利用した伝達に移行後3年経過し、伝達時間を短縮することに役立っている。  
秋の全国火災予防運動の周知を行い、防災意識の向上を行った。

#### (2) 備品・備蓄の管理

- ・備品については、9月に電灯類故障の有無や使用する電池の残量有無を確認した。
- ・備蓄品については、栄養課と協力し、賞味期限が近いものは通常の献立に活用し、昼食の食材として提供した。また、不足分については補充を行った。

#### (3) 消防計画の届出と防災設備等の設備点検

- ・消防法令に基づく消防用設備等（スプリンクラー等）の有資格業者による定期点検を、5月と11月に行った。

#### (4) 年間計画に基づき、防災訓練の企画、実施

- ・避難誘導を主とした訓練を9月、11月、3月と計画したが、新型コロナウイルス感染症予防対策の為、総合訓練は中止としたが避難経路等を書面にて再確認した。
- ・DVDを全館放送し、防災への意識向上も行った。（感想を書面で記載するよう求めた）
- ・現在ある上総園BCPは、2019年9月時の台風15号通過に伴う被害をもとにし、主に停電時に特化したものとなっている。  
想定されるのは停電だけでなく、停電時に予測される室内温度の上昇下降に伴う体調不良、感染症発生等、様々な事象を想定し対応策を講じるとともに策定した計画については適宜見直しを行っていく必要がある。
- ・施設内だけでなく、君津市東部地域包括支援センターを軸として地域の方々と協力しながら、地域の災害福祉拠点として頼られる存在となれるよう、BCPを整備していくことが必要である。今後もBCPに沿った訓練を計画・実施し、災害発生時、発生後の業務継続に万全を期すことを目指すこととする。

## 【安全衛生委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 安全衛生管理体制を確立し、ゼロ災運動を推進する

- ・危険個所に周知ポスターを掲示し、注意喚起を行った。
- ・安全衛生委員会を毎月開催し、労働環境をより良いものにするために、効果的なテーマや議題を選び、職員の健康状態の確認や長時間労働の是正に繋げた。

#### (2) 全職員の健康保持促進と快適な職場環境の形成を促進する

- ・新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を1月に、4回目接種を7月に実施した。10月にインフルエンザ予防接種を実施した他、職員定期健康診断、ストレスチェック、腰痛対策等に取り組んだ。
- ・職員定期健康診断の受診率は97%を超え、有所見率は37.2%であった。定期健康診断で肥満症や高血圧症の所見が多く、生活習慣病対策がますます重要になっている。法令健診項目以外のPSA検査では、要精密検査の職員に医療機関での再検査を促し、職員1名は早期がんと診断され、治療に繋げることができた。
- ・休職者や、疾病等により長期にわたる療養が必要な職員、治療を受けながら就労する職員に対して、定期的に面接を実施し、療養中・療養後の負担を軽減する勤務体制に繋げた。

#### (3) 安全衛生確保のため十分な教育・訓練を実施する

- ・今年度は新型コロナウイルス拡大防止のため、集合しての研修は自粛し、資料を配布して職場における腰痛予防の基礎知識を学び、動画視聴による腰痛予防体操を行った。研修終了後のアンケートでは「腰痛の原因に様々な要因があることが理解できた」「腰痛予防体操が参考になった」等の意見が多く寄せられた。
- ・新入職員と中途入職者については、安全衛生教育を実施した。

#### (4) 危険を予知して「危ない作業はしない・させない」の実践定着を図る

- ・安全な職場環境の整備の為、用務員の協力のもと防災用具の点検や、設備の点検を実施した。
- ・毎月1回のクリーンデイ（部署内等の清掃や5S活動）を活用して、環境整備の意識づけと、安心安全な職場環境の保身に努めた。
- ・今年度は新型コロナウイルスクラスターが発生したため、収束に向けての活動が中心となり、危険予知訓練の実施や活動が出来なかった。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 労働災害

内容		人数	原因
労働災害	打撲	1名	通勤時自損事故
	火傷	1名	調理時
合計		2名	

### (2) 2022年8月実施 職員定期健康診断の結果

No.	項目	受診者数		正常・ほぼ正常		経過観察		要医療		受診中		再検査		要指導	
		人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1	身体計測	196	113	57.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	83	42.3	
2	視力	196	165	84.2	0	0.0	0	0.0	11	5.6	0	0.0	20	10.2	
3	聴力	195	175	89.8	0	0.0	0	0.0	1	0.5	19	9.7	0	0.0	
4	胸部(肺)	195	195	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
5	心電図	196	173	88.2	15	7.7	5	2.6	0	0.0	3	1.5	0	0.0	
6	血圧	196	126	64.3	26	13.3	3	1.5	41	20.9	0	0.0	0	0.0	
7	肝臓・胆道系	196	189	96.4	5	2.6	0	0.0	2	1.0	0	0.0	0	0.0	
8	腎臓・尿路系	196	180	91.8	5	2.6	2	1.0	4	2.0	5	2.6	0	0.0	
9	脂質代謝	196	150	76.6	30	15.3	3	1.5	13	6.6	0	0.0	0	0.0	
10	糖代謝	196	162	82.7	22	11.2	3	1.5	9	4.6	0	0.0	0	0.0	
11	尿酸代謝	117	110	94.0	0	0.0	0	0.0	7	6.0	0	0.0	0	0.0	
12	血液算定	196	176	89.8	11	5.6	5	2.6	4	2.0	0	0.0	0	0.0	
13	白血球	196	188	95.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	4.1	0	0.0	
14	便潜血	193	185	95.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	4.1	0	0.0	
15	PSA	32	32	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	

## 【虐待防止委員会】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 虐待防止委員会を開催し、多職種による虐待防止に関する検討を行う

- ・施設入所者に対する虐待を防止することを目的とし、虐待防止委員会を開催した。事業計画においては隔月の開催を目標としたが、園内の新型コロナウイルス対応を優先したこと、協議題の選定や委員の参集等の準備が不十分となったこと等の理由から、開催は2回に留まり、隔月の開催には至らなかった。来年度以降、適正な開催頻度の検討も含め、委員会の定期的な開催を目指していくこととする。
- ・2021年の介護保険制度改正において、高齢者虐待の防止に係る委員会の開催、指針の整備、研修の実施等が義務付けられた。上総園においても、来年度内の実施を目指す。

#### (2) 虐待防止を目的とした職員研修及び採用職員への育成プログラムを実践する

- ・2022年5月に高齢者虐待の防止に関する基礎的な知識の修得を目的とした園内研修を実施した。新型コロナウイルスの予防対策のため、参集型の研修は行わず、研修資料の配布とアンケートを中心とした研修とした。
- ・新規採用職員及び中途採用職員を対象とし、入職時の研修プログラムの一環として、施設における高齢者虐待の防止を目的とした研修を行った。
- ・上総園運営規程及び指針に準じ、来年度以降の事業計画においては、年2回の園内研修を必須として取り組む。

#### (3) 虐待発生時の円滑な対応を図るため、委員会及び指針、フローチャート等を整備する

- ・入所者の人権、尊厳を保持し、人格を尊重することを目的とし、施設内における高齢者虐待の防止を目的とした「虐待防止のための指針」を作成した。作成した指針は委員会や園内の会議を通して委員や幹部職員に周知し、部署ごとに全職員へ周知した。
- ・来年度以降、フローチャート、届出様式等の整備を目指す。

#### (4) 職員間のコミュニケーションを促進し、職場環境の悪化による虐待発生を防止する

- ・新型コロナウイルスの感染防止対策として、休憩場所の分散やフロア間の職員の移動を原則禁止とするなど、職員間のコミュニケーションを阻害する要因が多い1年であった。このような職場環境の中であったが、職員への周知や啓発活動、リーダー層となる職員による働きかけや意識付け等の結果、今年度は上総園内における高齢者虐待の発生が0件であった。高齢者虐待ゼロの継続を目指し、来年度以降も職員への意識付けを継続していきたい。

## 【研修】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 新規・中途採用職員への手厚い入職時研修や育成指導を行う

- ・入職者に対し、従来の育成担当主任による指導に加え、フロアに担当のトレーナーを複数名配置することで、より丁寧な育成指導を行った。
- ・入職者や若手職員の健康状態やメンタルヘルス等の把握、モチベーションの維持を目的とし、コミュニケーションの促進に努めた。

#### (2) 専門資格の取得に向けた支援を行う

- ・3名の介護職員（特養2名、上総デイサービス1名）が、介護福祉士の資格を取得した。これにより、来年度からショートステイ事業において、従来のサービス提供体制加算Ⅱ（18単位/日）からサービス提供体制加算Ⅰ（22単位/日）への移行が可能となる見込みである。
- ・介護課において、1名の介護職員が介護支援専門員（ケアマネジャー）資格を取得した。実務研修受講試験の合格後、上総園の居宅支援事業所にて実務研修を受講し、主任ケアマネジャーがその指導に当たった。

#### (3) 園内研修、外部研修、法人研修等への参加率向上を目指す

- ・職員のスキル向上、モチベーション向上等を目的とし、研修情報の共有や勤務予定表作成時の人員調整等を行うことで、園内研修や法人研修への参加率向上を図ったが、参加率の向上には至らなかった。新型コロナウイルスの感染防止対策の一環として職員自身に加え、職員の同居家族の体調不良、発熱時等についても一定期間を自宅待機としたため、研修参加に十分な人員を確保できなかったことが主な要因として考えられる。

#### (4) 未経験・無資格の介護職員等に対する認知症介護基礎研修の受講を促進する

- ・直接介護業務に当たる未経験、無資格の介護職員等について、認知症介護基礎研修の受講を促進したが、年度内の実施には至らなかった。来年度中に対象者全員の受講を完了させるため、受講申請手続き、メールアドレスや受講場所の確保、受講者への事前説明等を実施した。
- ・上総園拠点における受講対象者は10名（特養7名、上総デイサービス2名、上総園ふれあいデイサービス1名）であった。



## 2. 2022年度 統計

### (1) 園内研修

研修項目	開催回数	内容等
新規採用職員研修	1	新規採用職員向け基礎研修
中途採用職員研修	1	中途採用職員の経験等に応じた職場研修等
法令遵守、法人理念、事業計画等	1	法令遵守・法人理念等
ケアプラン・アセスメント技術等	1	ケアプラン等の技術向上
接遇スキル向上、クレーム対応	1	接遇技術の向上
リスクマネジメント	2	介護事故防止
感染症防止	2	感染症防止対策
身体拘束廃止	2	身体拘束廃止
褥瘡防止	2	褥瘡防止対策
職員・職場の安全衛生	1	衛生管理・メンタルヘルス等
ハラスメント防止	1	ハラスメントの基礎
高齢者虐待防止	1	施設・事業所における高齢者虐待の防止
BCP（自然災害）	1	自然災害発生時のシミュレーション等

### (2) 外部研修参加状況

部署等	研修・講座数	参加者数（延べ）	
		参集方式	オンライン方式
管理監督職	4	3	1
総務課	2	2	0
支援課	16	14	2
介護課	14	8	12
リハビリ課	6	4	2
栄養課	1	1	0
看護課	0	0	0
上総デイサービス	3	2	1
ふれあいデイサービス	0	0	0
居宅支援事業所	8	6	4
地域包括支援センター	32	28	11
小計	-	68	33
計	86	101	

## 【苦情対応】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 苦情対応に係る相談窓口を設置し、苦情等への早期対応と早期解決を目指す

- 苦情発生時に円滑な対応ができるよう、特別養護老人ホーム及び在宅サービスの各事業所に苦情解決担当者を設置し、苦情対応体制を整備した。
- 今年度はショートステイ事業の利用者より1件の苦情申立てがあった。  
園内における新型コロナウイルスの予防対応に際し、一部が過剰な対応となったことと、家族への説明が不十分であったことから苦情に至った。  
把握した苦情内容を園内で協議した結果、事業所側に一定の瑕疵があったことが認められたため、速やかに利用者に再発防止策を提示し、改めてお詫びした。
- 4半期に1回、第三者委員への苦情・事故（災害）報告会を開催し、発生した苦情についての報告を行うとともに、再発防止に向けて第三者からの助言を得る機会とした。  
今年度は新型コロナウイルスのクラスター対応中であったこともあり、7月と10月の報告会は中止することとなった。

#### (2) 苦情対応等に係る指針や様式等を整備し、発生時の円滑な対応と早期解決を目指す

- 苦情対応規程や指針、フローチャートを用い、職員への意識付けを行った。
- 法人が定めた苦情対応に係る様式を用い、発生した苦情相談に対し円滑な対応を心掛けた。  
発生時の記録、要因分析、施設内での検討結果、解決策の提示などを記載し、施設内における情報共有と再発防止を図った。

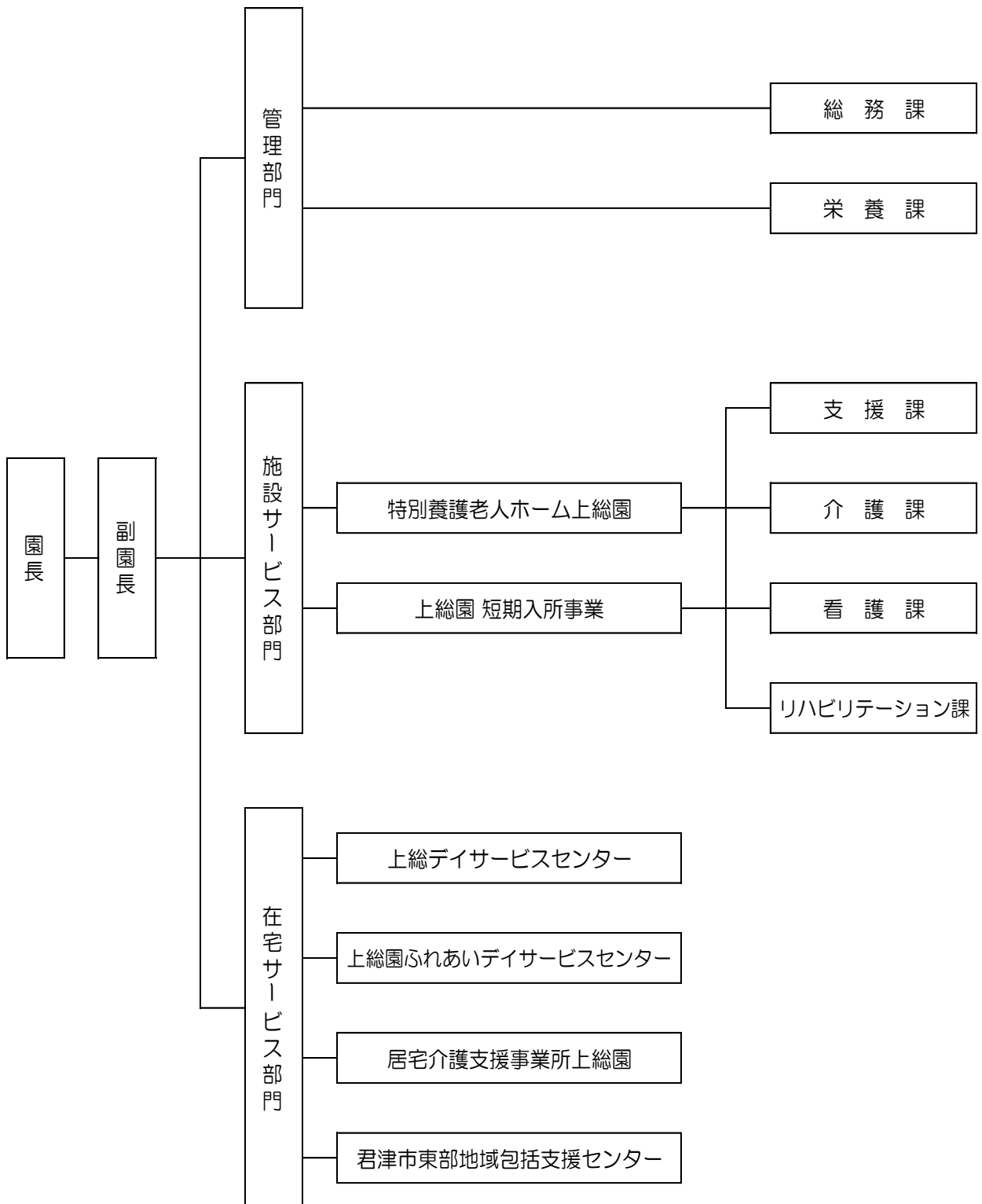
#### (3) 苦情解決等に関する職員のスキルアップを図る

- 接遇向上、苦情解決に係る園内研修を実施し、職員のスキル向上を図った。  
また、新規及び中途採用職員に対しても、入職時研修に合わせて研修を実施した。
- 苦情解決担当者のスキルアップを目的とし、千葉県運営適正化委員会等が主催する外部研修等への出席を検討したが、新型コロナウイルスの影響等により出席者の確保ができず、今年度は申込みを見送った。来年度も秋頃開催予定であり、出席できるよう調整を行うこととする。

【2022年度 上総園 会議・委員会一覧】

会議・委員会名	開催日	運営責任者	所 掌 事 項	構 成 員
運営会議	毎月 第3木曜	園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>上総園の事業運営に関する協議、決定</li> <li>予算、利用率等に関する協議、決定</li> <li>人事、育成、採用等に関する協議、決定</li> </ul>	園長、副園長、各課長、各事業所管理者、 介護課統括主任、園長が指名する者
課長・主任会議	毎月 第2金曜	副園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスの質の向上を目的とした協議</li> <li>各課、各事業所の事業運営に関する協議</li> <li>人事、育成、採用等に関する協議</li> </ul>	副園長、各課長、各事業所管理者、 副園長が指名する者
リスクマネジメント委員会	奇数月 第2火曜	委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故防止に資する取組みの協議</li> <li>苦情防止に資する取組みの協議</li> </ul>	委員長、委員
感染症防止委員会	奇数月 第2水曜	委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症防止に資する取組みの協議</li> <li>感染症発生時における対応策の協議</li> </ul>	委員長、委員
身体拘束廃止委員会	偶数月 第2火曜	委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体拘束廃止に向けた取組みの協議</li> </ul>	委員長、委員
褥瘡防止委員会	偶数月 第2水曜	委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>褥瘡防止に資する取組みの協議</li> <li>褥瘡発生時における対応策の協議</li> </ul>	委員長、委員
安全衛生委員会	毎月 第3木曜	安全衛生 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者及び職員健康及び保健衛生管理に関する協議</li> <li>職員のメンタルヘルスに関する取組</li> </ul>	委員長、委員が指名する者
防災管理委員会	随時	防災管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災管理業務の適正な運営に関する検討</li> <li>防災教育訓練、避難訓練等の実施</li> <li>防災用品、設備、備蓄等の整備</li> </ul>	委員長、委員が指名する者
虐待防止委員会	年4回 (4.7.10.1月) 第3木曜	委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者虐待防止に資する取組みの協議</li> <li>高齢者虐待発生時における対応策の協議</li> </ul>	委員長、委員
新型コロナウイルス 感染症対策本部	随時	本部長 (園長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウイルス防止対策の協議、決定</li> <li>ウイルス発生時における対応策の協議</li> <li>新型コロナウイルスの整備と周知</li> </ul>	本部長、副本部長、事務局長、事務局長、 本部長が指名する者
食事委員会	毎月 第3木曜	栄養課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の栄養管理</li> <li>食事に関する検討、決定</li> <li>行事食の検討、決定</li> </ul>	園長、副園長、各課長、各事業所管理者、 介護課統括主任
入所検討委員会	随時	支援課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別養護老人ホームへの入所可否に係る協議、決定</li> <li>優先入所、特例入所に係る協議</li> </ul>	園長、副園長、支援課長、介護課長、 栄養課長、リハビリテーション課長、 看護課長（看護課主任）
第三者委員への 苦情・事故（災害）報告会	年4回 (4.7.10.1月)	園長	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦情、重大事故、災害等の報告及び対応策の立案に対する助言</li> </ul>	第三者委員、園長、副園長、各課長、 各事業所管理者、園長が指名する者

【上総園 組織図】



## IV. 文京拠点



介護保険施設・事業指定に係る事項

事業所施設の名称	利用者定員	人員配置 (最低配置数)	営業日 営業時間	通常の事業 実施地域
文京湯島高齢者在宅サービスセンター	定員 35人	管理者 1 生活相談員 1 介護職員 5 機能訓練指導員 1 看護師 1	月曜日から土曜日、ただし12月29日から1月3日までを除く、8時45分から17時30分まで。サービス提供時間は9時15分から17時30分まで。	文京区内
文京昭和高齢者在宅サービスセンター	定員 45人	管理者 1 生活相談員 1 介護職員 7 機能訓練指導員 1 看護師 1	月曜日から土曜日、ただし12月29日から1月3日までを除く、8時45分から17時30分まで。サービス提供時間は9時15分から17時30分まで。	文京区内
昭和介護保険サービスセンター	—	管理者 1 主任介護支援専門員 1 介護支援専門員 3	月曜日から金曜日(土・日曜日休み)営業時間は8時45分から17時30分まで。	文京区内

介護給付算定に係る体制等の状況（介護給付請求の基礎となる施設・人員等の区分）

事業区分：指定事業所 地域区分：1 級地

指定事業所番号・名称	1370503201 文京湯島高齢者在宅サービスセンター 1370503193 文京昭和高齢者在宅サービスセンター 1370503219 昭和介護保険サービスセンター	
提供サービス	施設等の区分	その他該当する体制等
《 湯島 》  通所介護 (予防・総合事業)	通常規模	入浴介助加算Ⅰ 個別機能訓練加算Ⅰ□ サービス提供体制加算Ⅰ 運動器機能向上体制加算 処遇改善加算Ⅰ 特定処遇改善加算Ⅰ ベースアップ等支援加算
《 昭和 》  通所介護 (予防・総合事業)	通常規模	個別機能訓練加算Ⅰ□ サービス提供体制加算Ⅰ 運動器機能向上体制加算 処遇改善加算Ⅰ 特定処遇改善加算Ⅰ ベースアップ等支援加算
居宅介護支援	—	

## 【文京湯島高齢者在宅サービスセンター】(定員35人)

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 職員の育成に努め、サービスの質の向上を目指す。

- 1) 新任職員の育成に関しては、OJT 担当職員を設け、職員と日々話し合いで振り返りを行うなど、個性に合わせた育成・教育を行った。  
また、OJT 担当職員とリーダー層で相談や話し合いをする過程で、担当職員も指導者としての成長につながったことは大きな副産物であった。
- 2) ケースカンファレンスや日々のミーティング記録を、全職員が回覧・閲覧できるよう閲覧ボックスを新設するなど工夫を施した。  
また、検討が必要な事項に関しては別に取り上げ、広く職員の意見を汲み上げられるよう話し合いを行い、意思統一を図った。
- 3) 「デイサービスの可視化事業」(東京大学成瀬先生)の共同研究は継続中である。
- 4) 今年度より「職員人事考課制度」を導入し、職員との個別面接も実施した。  
今後は、「人事考課検討シート」の見直しや、年間を通じた個別面接の計画的な実施に向けて改善していく。

#### (2) 活動プログラムを充実する。

- 1) 来所時にやりたい活動を自己選択する形が定着した。  
活動によっては連続性や継続性があることで、さらに意欲的に集中して取り組む利用者も増えた。
- 2) アクティビティコーディネーターが中心となり、半年毎にそれぞれの活動の振り返りや活動担当職員を変更することで、今までと違った発見や改善点が見つかり、活動をより充実させることにつながった。
- 3) 今年度はコロナ禍ではあったが、年間行事の「夏祭り」や「忘年会」は感染症対策を講じながら実施した。夏祭りの「焼き鳥」提供や、「カラオケ」は再開するなど、内容や規模を縮小することなく開催することができた。  
同様に日々の活動の見直しを継続しながら、「持ち帰り作品作り」「おやつ作り」「映画上映」などの活動も定期的に行うことで、利用者の楽しみや満足につなげることができた。

#### (3) リハビリサービスを充実する。

- 1) 身体機能に合わせたリハビリプログラムは、「大集団(ストレッチ・健口体操/文の京体操)」と「身体機能別の小集団」の二度に分けてリハビリを提供した。  
それにより、身体を動かす時間が大幅に増えた。  
また、昭和サービスセンターの機能訓練指導員が兼務することにより、更にリハビリプログラムの内容に拡がりを持つことが出来た。



#### (4) 安定経営への取り組みを図る。

- 1) 昭和サービスセンターの協力も得ながら、科学的介護推進体制加算「LIFE」の導入の準備を進めている。
- 2) 「ゆしま便り」「ホームページ」「SNS」の充実を図り、事業所の魅力が外部により伝わるように取り組んでいる。

#### (5) 目標利用率80%を達成する。

- 1) 以下の対応により、2021年度71.0%から2022年度79.5%と、1割近い改善が図られ、ほぼ目標利用率を達成できた。
  - ①「入浴」「リハビリ」などの個々のニーズに柔軟に対応した結果、利用回数増や振替利用などのサービスの提供につなげる事ができた。
  - ②新規利用者及び見学申し込みの問い合わせに対して、即座に対応することを心掛けた結果、新規利用者獲得につながった。
  - ③昨年からのケアマネと顔が見える関係を構築してきたが、それが結果につながり始めた。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	80.0%	75.0%	80.0%
実績利用率	79.5%	71.0%	67.0%

### (2) 月別利用率実績（定員35人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数(日)	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	—
目標利用率(%)	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
実績利用率(%)	80.2	78.1	81.0	76.7	76.2	81.5	85.2	82.9	82.6	75.7	74.8	79.1	79.5
平均利用者数(人)	28.1	27.3	28.3	26.8	26.7	28.5	29.8	28.7	28.9	26.5	26.2	27.7	27.8

# 【文京昭和高齢者在宅サービスセンター】(定員45人)

## 1. 2022年度 取り組み実績

### (1) 職員の個性や意思を尊重した育成を強化する。

- 1) 歩行や排泄の介助方法の一覧を介護職と機能訓練指導員協働で作成した。また、科学的介護情報システム「LIFE」導入をにらみ、LIFEの書類作成を多職種協働で実施した。
- 2) 定期的な研修の実施とカンファレンス用紙の見直しにより、意見交換が活発になり、多職種の各々の視点から利用者について話し合うことができた。
- 3) 新任職員へ複数人の担当職員OJTを付けたことで、個別的な育成・教育ができた。  
しかし、担当職員OJTからの全職員への情報共有やコミュニケーション不足から、一部が指導的になったり、育成という視点が欠けてしまうこともあった。
- 4) 「職員人事考課制度」を導入することはできたが、事前の計画が不十分で、全職員の個人面談を終了することができなかった。

### (2) 活動プログラムを充実する。

- 1) 既存の「創作」「いきいき」「ほのぼの」「昭和塾」「麻雀・将棋」に加え、「花札グループ」が増えた。「麻雀グループ」「花札グループ」は、ほぼ利用者主体で活動することが可能になった。  
「創作グループ」では「文京区社会福祉協議会」協賛のチャリティーバザーを開催した。  
「いきいきグループ」での巾着作りなどグループ活動の内容が充実した。
- 2) 「デイサービスの可視化事業」(東京大学成瀬先生)の共同研究を継続した。  
デイサービスで提供されているアクティビティプログラムについての可視化にも発展している。
- 3) コロナ禍でも例年の行事を継続し、今年は外出行事であるお花見も復活した。

### (3) リハビリサービスを充実する

- 1) 身体機能に合わせて「大集団(ストレッチ・健口体操/文の京体操)」と「機能別の小集団」でのリハビリを利用者全員対象に実施した。

### (4) 安定経営への取り組みを図る。

- 1) 2023年度の科学的介護情報システム「LIFE」加算の取得を見越し、書類の整備を行い、科学的介護情報システムLIFEの導入に至った。  
2023年度より加算取得予定である。
- 2) 毎月、ホームページ・SNS共に定期的な更新ができた。今後も更に広報活動を継続していく予定である。

(5) 目標利用率85.0%を達成する。

1) 上半期は84.1%であったが、下半期は78.2%とかなり落ち込み、年間利用率は81.1%となり85%に至らなかった。

7~8月の新型コロナ陽性者の発生と利用控えもあり、利用率が下がり始め、また週複数回利用の方の終了と、新規利用者が少なかったことが主な原因と考えられる。

2) 送迎表の見直しを行い、新規利用者受け入れの体制を再調整した。

3) 12月から定員を45名から40名に変更し、職員配置も変更した。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 3年間の利用率推移

	2022年度	2021年度	2020年度
目標利用率	85.0%	85.0%	90.0%
実績利用率	81.1%	77.7%	77.3%

### (2) 月別利用率実績 (定員45人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数(日)	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	-
目標利用率(%)	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
実績利用率(%)	86.8	89.1	86.8	81.8	79.1	80.7	81.4	77.5	75.2	79.0	77.6	78.5	81.1
平均利用者数(人)	32.7	40.1	39.0	36.8	35.6	36.3	36.6	34.9	34.3	35.5	34.9	35.3	36.0

# 【昭和介護保険サービスセンター】

## 1. 2022年度 取り組み実績

### (1) コロナ禍での在宅生活継続のための支援

- 1) 前年度に引き続いてコロナ禍ではあったが、マスクの着用、手指消毒等の感染対策を講じて居宅訪問を行い、利用者及び家族の不安を取り除く努力を行った。
- 2) 感染症対策、災害対策に特化した事業継続計画の策定に向けた研修へ参加し、計画の策定に着手した。
- 3) 認知症、虐待防止、ハラスメント防止等の研修への参加と、研修を実施した。

### (2) 文京区内の他事業所との連携の充実

- 1) 区や他事業所との連携を図るため、文京区開催の「介護事業者連絡会」への出席。  
家族からの虐待ケースでは、包括や区と随時連携を図り、施設入所に結びついた。
- 2) コロナ禍でも、オンライン等を活用しながら研修やカンファレンスへの参加を行った。

### (3) 職員の個性や意思を尊重した育成を強化する。

- 1) 「職員人事考課制度」についてはまだ活用途上であるが、個別面接により職員個々の意思を尊重した育成は行えるきっかけとなった。

### (4) 健全な運営のため、目標計画作成件数85件の達成

- 1) 目標計画件数の85件に対して、91.6件と年間を通して上回る事が出来た。
- 2) プラン終了時は管轄の地域包括支援センターへ情報提供を行い、文京区の介護事業者検索システムへ空き情報を掲載した。
- 3) 必要な帳票類の点検・確認の自己点検を行った。

## 2. 2022年度 統計

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
目標件数		85	85	85	85	85	85	85	85	85	85	85	85	1,020
実績	要介護	86	89	87	97	93	95	91	94	92	90	92	93	1,099
	要支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総件数	86	89	87	97	93	95	91	94	92	90	92	93	1,099
	1人当たりの担当件数	30.0	31.0	31.0	34.0	33.0	33.0	32.0	33.0	32.0	32.0	32.0	33.0	386.0

## 【防災対策】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 災害への対策を継続する。

1) BCP を活用し、災害時を想定した訓練を 2 回実施した。

#### (2) 災害への対策を強化しながら事業継続する。

1) 3 事業所それぞれで BCP の見直しを行った。

2) 福祉避難所の備蓄品が入れ替え時期であったため、備蓄品の入れ替えを行った。

## 【感染症対策】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 感染症への対策を継続する。

1) 感染対策(三密を避ける、マスク装着・手洗い、換気等)を実施し、利用者・職員共に複数回の検温を実施した。

2) 職員の抗原検査を 7 月から週 2 回実施した。また、自覚症状があったときには、速やかに検査できるように各職員に検査キットを配布し、必要時使用し、陽性者の早期発見に努めた。

3) 新型コロナウイルスについての研修を実施した。

#### (2) 感染症への対策を強化しながら事業継続する。

1) 感染者が発生した場合に備えて濃厚接触者等を確実に割り出せるよう、活動の様子や座席配置等を常時 iPad で撮影し、記録した。

2) 陽性者が判明した時には、区へ報告書を速やかに提出し、濃厚接触者との関連性を明らかにし、事業継続できるように努めた。

3) 感染症対策委員会を立ち上げ、6 月と 12 月に開催した。

## 【地域貢献事業 実習生・ボランティア】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 地域貢献事業

- 1) 11/16「アクティブ介護文京」に職員を派遣した。(昭和)
- 2) 文京区より依頼され、事業所紹介のためケーブルテレビの出演協力。
- 3) 文京区監修「介護のお仕事ガイド」パンフレットへの協力。(湯島)
- 4) 地域ケア会議にオンラインで参加した。(昭和、年6回開催)
- 5) 地域公益事業へ協力を行った。
  - ①昭和：「昭和体操火曜グループ(13名)」(毎週火曜日)  
2部制に分けて実施した(9:20~10:20、10:30~11:30)。
- 6) 地域公益活動ネットワークへの参加及び「夢の本箱」プロジェクトへの協力。
- 7) 「文の京介護予防体操」巡回指導を8・9月に区内の15か所で実施した。

#### (2) 実習生の受け入れ

- 1) オンライン講義実習も取れ入れて行った。

#### (3) ボランティア

- 1) 昭和：忘年会で3団体を受け入れた。

#### (4) 「介護施設お助け隊」の受け入れと活用

- 1) 文京区介護施設ワークサポート事業のインターンシップを受け入れた。(4名)
- 2) シルバー人材センターとの共働。合計11名。

## 2. 2022年度 統計

### (1) 実習生受け入れ状況

#### 1) 社会福祉士（社会福祉援助技術現場実習）

養成校名	受入人数
東洋大学	3名
大正大学	2名
日本福祉教育専門学校	4名

#### 2) 介護福祉士（介護実習）

養成校名	受入人数
彰栄保育福祉専門学校	1名
東京医療秘書福祉専門学校	1名

#### 3) 看護師（老年看護学実習）

養成校名	受入人数
文京学院大学	10名

## 【研修】

### 1. 2022年度 取り組み実績

#### (1) 施設内研修（新人研修含む）

- 1) 非常勤職員が参加しやすいように 30 分程度で行うように努めた。（別紙参照）
- 2) 湯島・昭和合同で研修を実施。ZOOMで開催したり、研修方法も工夫して、職員が参加しやすいように配慮した。

#### (2) 外部研修

- 1) 研修内容に応じて受講すべき職員を決め、参加した。  
今年度も、新型コロナウイルス感染予防のためオンラインでの参加が多かった。



## 2. 2022年度 統計

### (1) 施設内研修

研修項目	開催時期	研修内容等	講師等	参加者数	
倫理・法令順守	3月28日	倫理・法令順守	増田	湯島	11名
リスクマネジメント	5月10日	転倒事故予防について	帯金	湯島	13名
身体拘束廃止	7月21日	虐待や身体拘束の防止について	小川	湯島	9名
	9月7日	帰宅願望ある利用者の対応について	早川	昭和	10名
感染予防	7月	感染対策マニュアルについて	回覧	合同	
	12月	介護現場における感染対策について	回覧	合同	
認知症について	7月20日	利用者への対応①	村形	昭和	7名
	2月17日	利用者への対応②	齋藤	昭和	13名
	4月29日	異食について	鈴木藍	湯島	13名
	8月	お出かけ見守りシールについて	回覧	昭和	
	11月14日	帰宅願望のある利用者への対応について	石田	湯島	10名
	2月8日	介護サービスにおける認知症の利用者のケアについて	動画視聴 繁田雅弘医師	合同	19名
ハラスメント防止	1月11日	カスタマーハラスメントについて	前田	合同	20名
リハビリについて	5月4日 6月2日	バーセルインデックス	宮田	昭和	17名
	7月6日 8月3日	LIFEについて	早川	昭和	15名
高齢者虐待防止について	10月5日	高齢者虐待のケーススタディ	早川	合同	25名
	3月1日	高齢者虐待防止について	早川	合同	15名
活動について	5月17日	送迎開始時の動き①	小倉（夏）	昭和	10名
	5月24日	送迎開始時の動き②	齋藤	昭和	10名
	8月3日	カラオケ活動について	早川	昭和	6名
接遇について	2月21日	自立支援について	鈴木藍	湯島	11名
	3月23日	利用者の対応について	帯金	湯島	9名

## (2) 施設外研修

部署等	研修・講座数	参加者数(延べ)
湯島通所	9	12
昭和通所	7	17
昭和居宅	13	15
合計	29	44

## 【苦情対応】

### 1. 2022年度 取り組み実績

利用者及び家族からの相談に対しては、窓口担当で対応した。

- 1) 文京湯島高齢者在宅サービスセンター  
苦情対応はなし。
- 2) 文京昭和高齢者在宅サービスセンター  
苦情対応はなし。
- 3) 昭和介護保険サービスセンター  
苦情対応はなし。

## 【2022年度 会議・委員会一覧】

会議・委員会名	開催日	運営 責任者	所 掌 事 項	構 成 員
職員会議	月1回程度 17:30～18:00	センター長	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター業務全般の確認、協議等</li> </ul>	センター長、職員全員
湯島-昭和会議	月1回程度 17:30～18:00	主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>両事業所の月報報告および情報交換</li> <li>各種委員会(防災・感染症・虐待防止)の開催</li> </ul>	主任、副主任
運営会議	必要時	主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター業務全般の協議等</li> </ul>	センター長、主任、副主任、 アクティビティコーディネーター 出勤している職員全員
ミーティング	毎日 8:45～8:50 17:00～17:15	主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>当日業務の確認、事務連絡など</li> <li>利用者の状況報告等</li> </ul>	出勤している職員全員
居宅ミーティング	毎日 9:45～10:00	主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>当日業務の確認、事務連絡など</li> <li>利用者の状況報告等</li> </ul>	出勤している職員
ケースカンファレンス	週1回 水曜日 17:40～18:00	主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の個別評価</li> <li>個別援助計画について</li> </ul>	出勤している職員
食事会議	月1回 16:30～16:50	食事担当 職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事サービスについての意見交換等</li> </ul>	食事担当職員、委託業者
介護職会議	必要時 11:20～12:00	アクティ ビティ コーディネ ーター	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職での情報共有、意見交換等</li> </ul>	アクティビティコーディネーター 各活動リーダー及び介護職員

【 文京拠点 組織図 】

